



# 和同産業株式会社



JQA-QM5922 本社・工場  
JQA-EM3683 本社・工場  
CM009  
この登録マークは製品またはサービス  
そのものを保証するものではありません。

本 社 〒025-0035 岩手県花巻市実相寺410番地  
TEL 0198-24-3221 FAX 0198-41-1221  
花巻営業所 〒025-0035 岩手県花巻市実相寺410番地  
TEL 0198-24-3221 FAX 0198-41-1221  
長野営業所 〒381-2207 長野県長野市大橋南2丁目19番地  
TEL 026-285-0885 FAX 026-285-0887  
岩見沢営業所 〒068-0852 北海道岩見沢市大和2条3丁目9番地  
TEL 0126-22-6221 FAX 0126-32-2162  
岡山出張所 〒708-0015 岡山県津山市神戸536-1  
本社へお問い合わせください

WADOホームページ <https://www.wadosng.jp/>

## お客様メモ

購入日 年 月 日

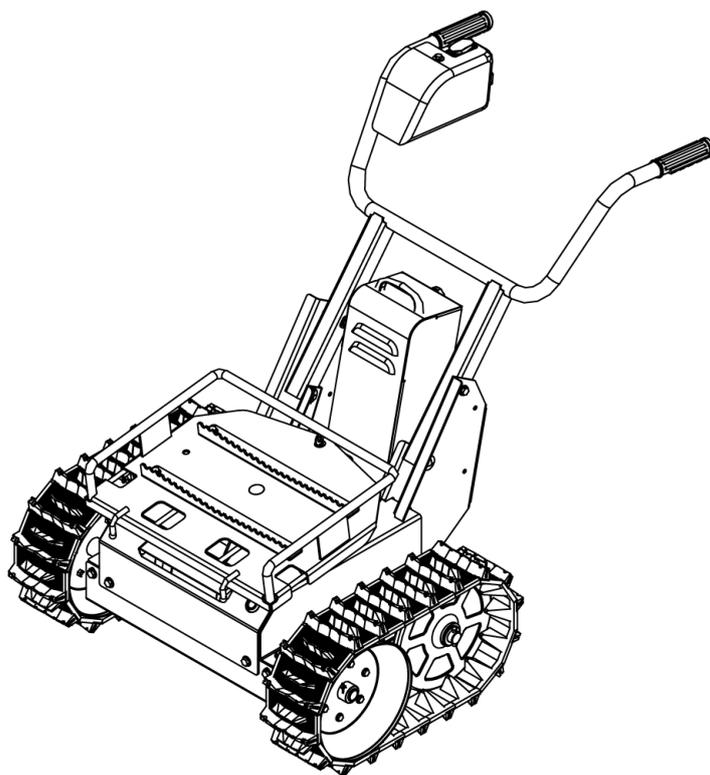
購入店

2022年3月

# 取扱説明書



# 電動木材運搬車 e-WD80



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。

お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。



# はじめに

**お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。**

このたびは、和同製品をお買い上げいただきありがとうございました。  
この取扱説明書は、機械の取扱い方法と、使用上の注意事項について記載  
しています。

本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内  
容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお  
手元に置いてください。

## お願い

- 本機を使用する前に、必ず取扱説明書をよく読んで、十分理解してから使用  
してください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお  
渡してください。
- この取扱説明書および警告ラベルを、紛失または損傷された場合は、速やか  
にお買い上げいただいた販売店にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1章 安全に作業  
するために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読み  
ください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた販  
売店へご相談ください。

## おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際に  
は、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場  
合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載も  
れなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。販売店へご相  
談ください。

## 説明記号の見方



その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負うことになるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負う危険性があるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

### [重要]

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

### [参考]

作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

## 本製品の使用 目的について

- 本製品は、運搬車としてご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
- 使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（保証適用除外事項は、保証書をご覧ください。）

# もくじ

## はじめに

1章 安全に作業するために必ずお守りください……………	1
・ 1. 一般的な注意項目 ……………	1
・ 2. バッテリーについての注意項目 ……………	4
・ 3. 充電についての注意項目 ……………	6
・ 4. 作業前後の確認時の注意項目 ……………	9
・ 5. 輸送時の注意項目 ……………	12
・ 6. 移動・作業時の注意項目 ……………	14
・ 7. 作業終了後・保管時の注意項目 ……………	19
・ 8. 警告ラベルの貼り付け位置 ……………	21
2章 保証とサービスについて……………	22
3章 各部のなまえ……………	23
4章 各操作部のはたらき……………	25
・ ①メインスイッチ……………	25
・ ②前後進スイッチ……………	25
・ ③状態表示ランプ……………	26
・ ④車速調節レバー……………	27
5章 運転前の準備・点検……………	28
・ 1. 始業点検一覧表 ……………	28
・ 2. バッテリーカバーの取り外しかた ……………	29
・ 3. バッテリーカバーの取り付けかた ……………	29
・ 4. ハンドル高さの調節のしかた ……………	30
・ 5. バッテリー ……………	31
・ 6. その他の点検 ……………	35

6章	運転・移動のしかた	36
・ 1.	発進のしかた	36
・ 2.	旋回のしかた	38
・ 3.	停車・駐車のしかた	38
・ 4.	トラックでの運搬のしかた	39
7章	牽引作業のしかた	41
・ 1.	木材の固定	42
・ 2.	発進の要領	44
・ 3.	荷台回転の固定・可動の切り替え	45
8章	定期点検	46
9章	点検・整備のしかた	47
・ 1.	バッテリーベースカバー・テーブルベースカバーの取り外しかた	47
・ 2.	バッテリー残量	48
・ 3.	クローラ張り調整	49
・ 4.	ヒューズ	50
・ 5.	ドライブピン（車軸）	50
・ 6.	ドライブピン（チェンスプロケット）	51
・ 7.	テーブルベースカバー内部の清掃	51
・ 8.	グリースアップ	52
10章	長期間使用しないときの手入れ	53
11章	不調診断のしかた	54
12章	主要諸元	55
13章	主要消耗部品および標準付属品	56

# 1章 安全に作業するために必ずお守りください

ここに記載されている注意事項を守らないと、  
死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

## 1. 一般的な注意項目



**警告**

「取扱説明書」や「警告ラベル」をよく読んで。

本機を使用する前に、必ず「取扱説明書」や「警告ラベル」をよく読んで、十分理解してから使用してください。

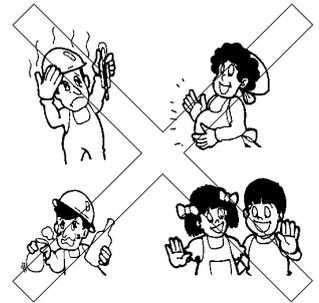
取扱説明書に記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損等が生じるおそれがあります。



**警告**

こんなときは運転しない。

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき
- 酒を飲んだとき
- 妊娠しているとき
- 18歳未満の人
- 睡眠不足の人
- 操作する体力に自信のない人
- 運転が未熟な人
- 視力不足のため、表示内容が読めない人
- 取扱説明書の内容が理解できない人



**警告**

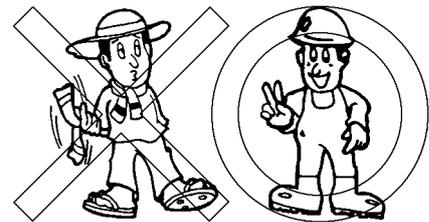
すべりにくい靴・手袋などの作業に適した服装を心がけてください。

はち巻き、首巻きタオル、その他巻き込まれそうな服装は禁止です。

ヘルメット、すべり止めの付いた長靴、手袋を着用し、作業しやすい、だぶつきのない服装にしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、ケガをするおそれがあります。



**警告**

運搬目的外の作業は絶対禁止。

本機は運搬車です。運搬目的外の使用は絶対しないでください。

【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



**機械を他の人に貸すときは取扱説明書を読むように指導する。**

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

**【守らないと】**

説明不足により死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



**機械の改造や指定以外のアタッチメントの装着禁止。**

改造をしないでください。

**【守らないと】**

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



**機械の中に手を入れない。**

カバーの中には回転部や可動部があり、むやみに手などを入れると大変危険です。やむをえないときは必ずバッテリーを外してから行なってください。

**【守らないと】**

回転物などに巻き込まれ、傷害事故をまねくおそれがあります。



**荷台に乗らない。**

荷台には乗らないでください。

**【守らないと】**

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。

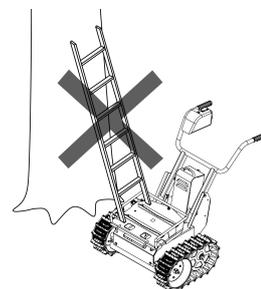


### 荷台上で補助台やはしご等を使用しない。

荷台の上で補助台やはしご等を使用しないでください。

#### 【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



### 高圧洗浄機を使用しない。

本機を洗う際には高圧洗浄機を使用しないでください。

#### 【守らないと】

- 電気配線部被覆の損傷、断線により、火災をおこすおそれがあります。
- 電装品への水の浸入により、故障するおそれがあります。
- 機械の破損、損傷、故障の原因になります。
- 塗装、メッキ、ラベルが剥がれるおそれがあります。



### 電装品に水をかけない。

電装品に水をかけないでください。

#### 【守らないと】

- 機械の誤動作により、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 電装品の故障の原因になります。

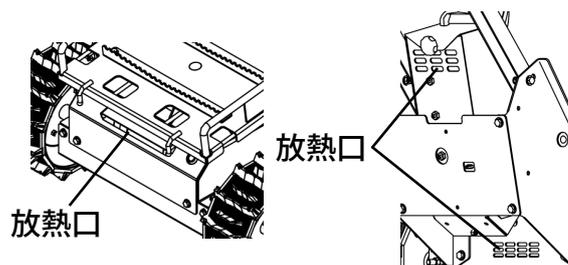


### 放熱口から直接水を流し込まない。

放熱口から直接水を流し込まないでください。

#### 【守らないと】

- 機械の誤動作により、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 電装品の故障の原因になります。



## 2. バッテリーについての注意項目



**警告**

**必ず指定のバッテリーを使用。**

必ず取扱説明書で指定されたバッテリーを使用してください。

**【守らないと】**

火災の原因となることがあります。

※指定のバッテリーはP. 31参照



**警告**

**バッテリーは高温・低温になる場所には置かない。**

バッテリーは、直射日光の当たる場所やストーブなどの近くなどの高温になる場所、40℃を超える場所、-20℃を下回る場所には置かないでください。

**【守らないと】**

破裂、液漏れ、故障によりケガをするおそれがあります。



**警告**

**バッテリーを濡らさない。**

バッテリーを濡らさないでください。

**【守らないと】**

保護回路の故障による異常な充電により、発熱、破裂、発火のおそれがあります。



**警告**

**バッテリーのプラス端子とマイナス端子をショートさせない。**

バッテリーのプラス端子とマイナス端子を金属で接続しないでください。また、バッテリーをネックレスやヘアピン、コイン、鍵などの電気を通すものと一緒に持ち運んだり、保管したりしないでください。

**【守らないと】**

発熱、破裂、発火のおそれがあります。



**警告**

**バッテリーに衝撃を与えない。**

バッテリーを落下させるなどして強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

**【守らないと】**

バッテリーの変形や保護回路の故障により、発熱、破裂、発火のおそれがあります。



**警告**

**バッテリーを分解・改造しない。**

バッテリーを分解したり、改造しないでください。

**【守らないと】**

発熱、破裂、発火のおそれがあります。



**警告**

**バッテリーは子どもの手の届く所に置かない。**

バッテリーは子どもの手の届くところには置かないでください。

**【守らないと】**

事故、ケガをまねくおそれがあります。



**警告**

**バッテリーの異常に気付いたら、使用しない。**

バッテリーの使用、充電、保管時の異臭、発熱、変形、その他の異常に気付いたときは、本機や充電器から取り外し、使用しないでください。

**【守らないと】**

発熱、破裂、発火のおそれがあります。

### 3. 充電についての注意項目



**必ず指定の充電器を使用。**

必ず取扱説明書で指定された充電器を使用してください。

また、この充電器を指定のバッテリーを充電する以外の用途には使用しないでください。

**【守らないと】**

充電器が過熱・発火したり、バッテリーの液漏れ・過熱・爆発の原因となります。

※指定の充電器はP.33、指定のバッテリーはP.31参照



**高温・低温・多湿になる場所では充電しない。**

バッテリーは、直射日光の当たる場所やストーブなどの近くなどの高温になる場所、40℃を超える場所、10℃を下回る場所、湿度70%以上の場所では充電しないでください。

**【守らないと】**

破裂、液漏れ、故障によりケガをするおそれがあります。



**すきまのない場所で充電しない。**

壁・家具・柱に接近して充電したり、バッテリーや充電器に物が覆いかぶさった状態で充電しないでください。

**【守らないと】**

過熱により火災や製品の故障をおこすおそれがあります。



**塩害・塵灰害の被害を受けやすい場所や、可燃性ガス・蒸気等の危険場所では充電しない。**

塩害・塵灰害の被害を受けやすい場所や、可燃性ガス・蒸気等の危険場所では充電しないでください。

**【守らないと】**

爆発・火災・漏電・感電の原因となることがあります。



**警告**

**充電器を分解・改造しない。**

充電器を分解したり、改造しないでください。

**【守らないと】**

発熱、破裂、発火のおそれがあります。



**警告**

**充電器が濡れた状態で使用しない。**

充電器が濡れていないかを確認してから使用してください。

**【守らないと】**

感電、過熱、発火の原因となることがあります。



**警告**

**充電器やコードに異常がないかを確認する。**

充電器や電源コード・充電コードなどのヒビ割れ、芯線の切れかけ、芯線の腐食がないかを確認してから使用してください。

**【守らないと】**

感電、過熱、発火の原因となることがあります。



**警告**

**コードを無理に曲げたり、物を乗せたりしない。**

電源コード・充電コードを無理に曲げたり、上に物を乗せたりしないでください。

**【守らないと】**

コードが破損し、感電、過熱、発火の原因となることがあります。



**充電器に重いものを乗せたり、落下しやすいところに置いて使用しない。**

**【守らないと】**

充電器の破損、落下等によるケガ、感電、過熱、火災の原因となることがあります。



**充電器の接続部に金属を接触させない。**

充電器や電源コード・充電コードの接続部に他の金属類を差し込んだり、接続したりしないでください。

**【守らないと】**

感電、過熱、発火のおそれがあります。



**コンセントから抜くときは、コードを引っ張らない。**

電源コードは、コードを引っ張らず必ずプラグを持ってコンセントより抜いてください。

**【守らないと】**

電源コードが破損し、感電、過熱、発火のおそれがあります。



**充電しないときはコンセントからプラグを抜く。**

使用後や使用しないときには、電源プラグをコンセントから抜いてください。

**【守らないと】**

感電、過熱、発火の原因となることがあります。

#### 4. 作業前後の確認時の注意項目



**機械の下にもぐったり、足を入れない。**

機械の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

**【守らないと】**

何かの原因で機械が動いたときに、傷害事故をおこすおそれがあります。



**電気部品・コードは必ず点検。**

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎作業前に点検してください。

**【守らないと】**

ショートして、火災の原因となることがあります。



**バッテリー周辺のゴミは取り除く。**

バッテリー周辺部にゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。

**【守らないと】**

火災事故やオーバーヒートを引き起こすおそれがあります。



**作業エリアの異物はあらかじめ取り除く。**

あらかじめ作業エリアのビニール・ビン・カン・ホース・縄・布切れ・線材およびその他の異物をすべて取り除いてください。

**【守らないと】**

思わぬ傷害事故の原因となります。



**警告**

点検整備は平坦で安定した場所で行う。

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で点検整備をしてください。

**【守らないと】**

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



**警告**

機械の点検整備・清掃などをするときはバッテリーを外す。

**【守らないと】**

思わぬ傷害事故の原因となります。



**注意**

作業前・後は必ず機械の点検をする。

本機をいつも正常な状態で使用するために、使用前と後には必ず機械の点検をしてください。特にレバーなどの操作装置は確実に作動することを確認してください。

**【守らないと】**

整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。



**注意**

カバー類は必ず取り付ける。

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

**【守らないと】**

機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



**注意**

点検整備は高温部が十分冷めてから。

モーターやモータードライバーなどの高温部が十分冷めてから点検整備をしてください。

**【守らないと】**

火傷をするおそれがあります。

## 5. 輸送時の注意事項



トラックへの積み込み時は、強度・幅・長さの十分ある  
アユミ板を使用する。

アユミ板は丈夫ですべり止めのある、基準にあったもの  
を使ってください。

【守らないと】

アユミ板が折れたりして転倒し、傷害事故をおこすこと  
があります。

<アユミ板の基準>

強度：機体の重量+作業者の  
体重に十分耐えるもの

幅：クローラ幅の1.2倍以上

長さ：荷台の高さの4倍以上

：すべり止めのあるもの

：フックのあるもの



アユミ板は確実に固定する。

積み込み・積み降ろしをするトラックの荷台からズレたり、外れたりしないように確実にア  
ユミ板を固定してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



トラックには必ず車止めを。

積み込むトラックのエンジンを止め、変速は「P」または、「1」・「R」位置に入れ、駐車  
ブレーキをかけて車止めをしてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。



積み込み・積み降ろし作業は、誘導者をつけて。

トラックなどからの積み込み・積み降ろし作業は、誘導者をつけて、周囲の安全を十分確認し  
てください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



**ロープで確実に固定する。**

トラックにのせて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックに確実に固定してください。

**【守らないと】**

荷台から機械が転落したり、事故をまねくおそれがあります。



**アユミ板の上では進路変更や停止をしない。**

トラックへの積み込み・積み降ろしは、アユミ板の上で進路変更をしないように進路を定めて低速で行ってください。

また、アユミ板の上では停止しないでください。

**【守らないと】**

転落などの事故をまねくおそれがあります。



**本機を持ち上げる時は、2人で行う。**

本機を持ち上げて積み込みや積み下ろし、移動などを行う際は、2人で行ってください。

**【守らないと】**

思わぬ傷害事故の原因となります。

## 6. 移動・作業時の注意項目



付着した異物を取り除くときは、  
メインスイッチを切る。

【守らないと】  
機械が動きだし、ケガをするおそれがあります。



作業エリアには子供や動物を近づけない。

幼児、子供およびペット等には十分注意し、近づけないようにしてください。  
【守らないと】  
思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



本機動作中は、周囲に人や動物を近づけない。

【守らないと】  
思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



後進するときは低速で障害物に注意。

後進するときは低速で行い、転倒しないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認して、障害物と機械の間に挟まれないようにしてください。  
【守らないと】  
機械に挟まれたり、転倒などの重大事故のおそれがあります。



### 坂道は走行注意。

坂道を走行する場合は、転倒やスリップに気を付けて、低速でゆっくりと移動してください。

#### 【守らないと】

機械の横転、暴走など思わぬ事故を引き起こす原因となります。



### 急な傾斜では使用しない。

使用可能な傾斜角度は、上り下りの場合は $25^\circ$ 、トラバース（坂を横切る）走行の場合は $15^\circ$ です。それ以上の傾斜では使用しないでください。

また、積載物がある場合や、牽引作業をしながらのトラバース走行は極力避けてください。

#### 【守らないと】

機械の横転、転倒事故などの原因となります。



### 過積載をしない。

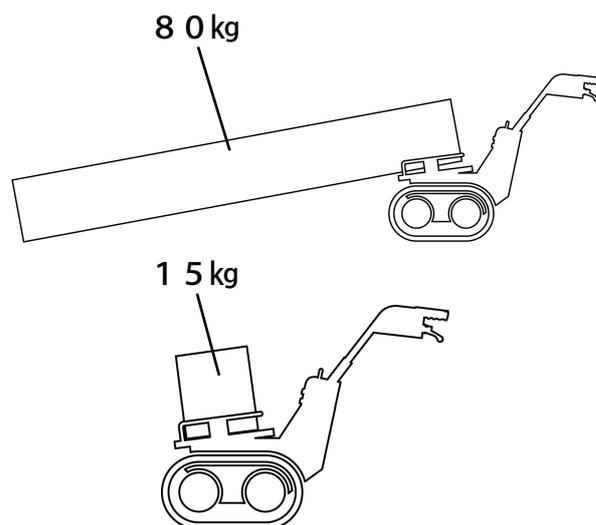
本機の木材最大牽引量は80 kgです。

また、最大積載量は15 kgです。

規定を超える積載はしないでください。

#### 【守らないと】

機械の破損、事故の原因となることがあります。



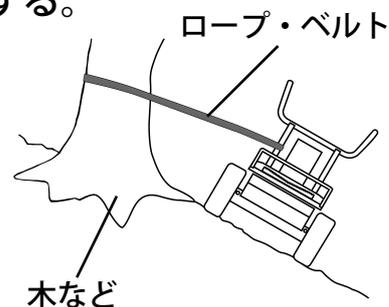


### 坂道で駐車するときは本機を固定する。

坂道で長時間駐車するときは、本機をトラバース方向（坂を横切る方向）に停車し、メインスイッチを切り、木などにロープやベルトで固定してください。

#### 【守らないと】

滑り落ちたり、転倒などの事故の原因となります。



### すべりやすい路面では十分注意し低速で。

滑りやすい路面ではなるべく作業しないでください。  
やむをえない場合は、十分注意し低速で行ってください。

#### 【守らないと】

転倒事故などの原因となります。



### わき見運転や手放し運転禁止。

#### 【守らないと】

傷害事故の原因となります。



### 機械の異常に気付いたらすぐにメインスイッチを切る。

異物が当たったり、巻き付いたり、異常振動、異音、異臭などに気付いたら、すみやかにメインスイッチを切り、高温部が冷めてからバッテリーを外して点検してください。

#### 【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



**回転部に手・足・顔を近づけない。**

回転している部分をのぞき込んだり、手・足・顔を絶対に近づけないでください。

**【守らないと】**

機械へ巻き込まれて、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



**燃えているものの上やその近くは走行禁止。**

**【守らないと】**

火災になるおそれがあります。



**塩害・塵灰害の被害を受けやすい場所や、可燃性ガス・蒸気等の危険場所では使用しない。**

塩害・塵灰害の被害を受けやすい場所や、可燃性ガス・蒸気等の危険場所では使用しないでください。

**【守らないと】**

爆発・火災・漏電・感電の原因となることがあります。



**急発進・急旋回・急停止やスピードの出しすぎ禁止。**

発進・停止はゆっくり行ってください。旋回するときは、十分速度を落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では十分速度を落としてください。

**【守らないと】**

機械の破損、事故の原因となることがあります。



**注意**

**移動時は路肩に注意。**

溝のある道路や両側が傾斜している道路では、路肩に十分注意してください。

**【守らないと】**

転落事故を引き起こすおそれがあります。



**注意**

**本機に異物が付着したときはすぐに取り除く。**

ワイヤーやハーネス、足回りなどに異物が付着したときは、電源を「OFF」にしてすぐに取り除き、付着したままにしないでください。

**【守らないと】**

機械の破損、事故の原因となることがあります。



**注意**

**砂利のある場所では運転注意。**

砂利のある場所で運転する場合は、危険があるので常に注意して運転してください。

**【守らないと】**

機械の破損、事故の原因となることがあります。



**注意**

**周囲の安全を確かめ低速で発進する。**

急発進や急旋回をしないで周囲の安全を確認してゆっくりと発進してください。

**【守らないと】**

思わぬ事故をまねくおそれがあります。

## 7. 作業終了後・保管時の注意項目



**危険**

シートなどは機械が十分冷めてからかける。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。



**警告**

機械の清掃・点検をするときはバッテリーを外す。

【守らないと】

機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。



**注意**

定期点検整備を受けてください。

本機をいつも正常な状態で使用するために、1年ごとに定期点検を受け、各部の保守をしてください。

【守らないと】

整備不良による事故や、機械の故障を生じるおそれがあります。



**注意**

長期保管時は本取扱説明書の指示内容に従い保管する。

【守らないと】

整備不良による事故や、機械の故障を生じるおそれがあります。

**重要**

長期保管時はバッテリーを外す。

長期間使用しないで保管する場合は、バッテリーを取り外してください。

**【守らないと】**

故障の原因となることがあります。

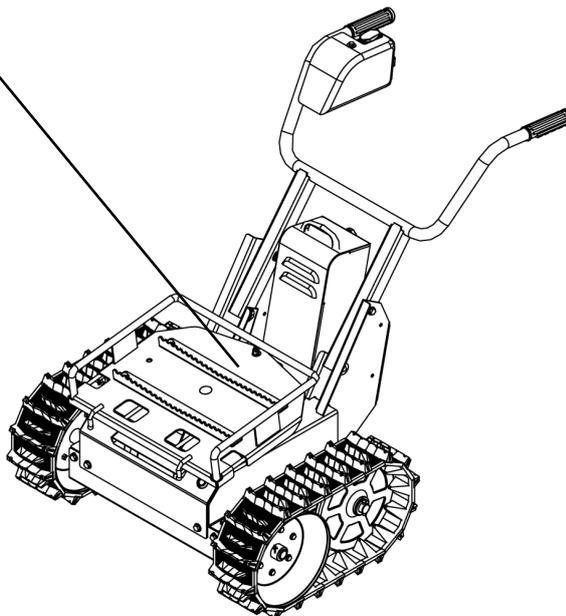
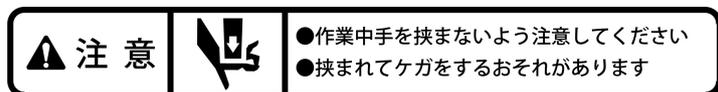
## 8. 警告ラベルの貼り付け位置

警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへの危険を知らせる大事なものです。ラベルが損傷した場合はできるだけ早く貼り替えてください。

なお、注文の際には、この図に示す部品番号をお知らせください。

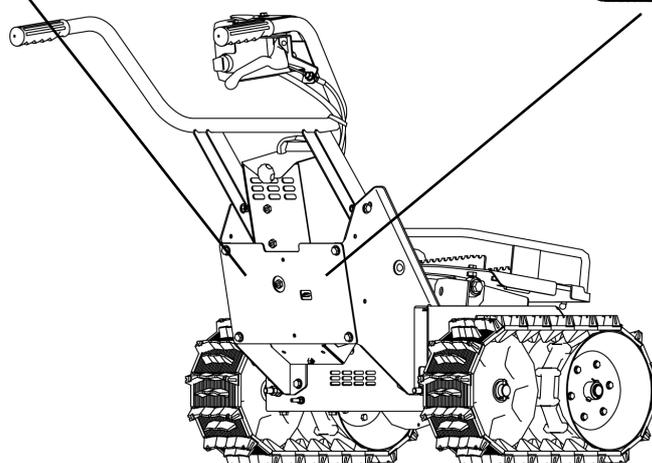
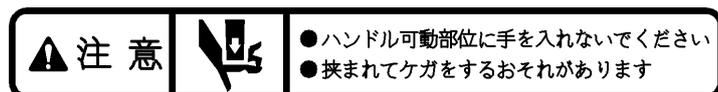
品番 91195-022

品名 作業部挟まれ注意ラベル



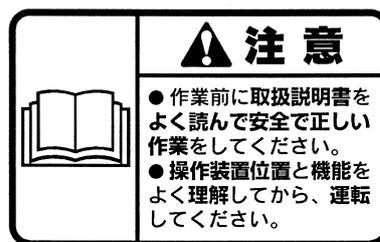
品番 91195-016

品名 可動部挟まれ注意ラベル



品番 91195-005

品名 取扱説明書注意ラベル



## 2章 保証とサービスについて

### 保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

### アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに54ページの「11章 不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

#### <連絡していただきたい内容>

●型式名と製造番号

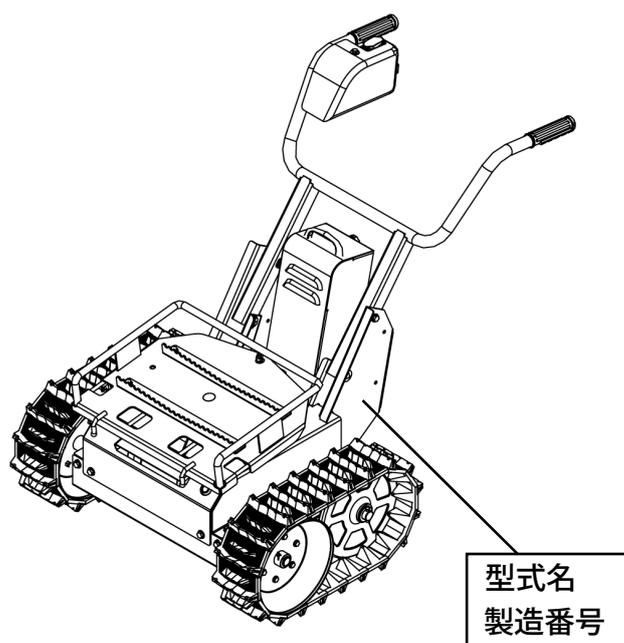
●ご使用状況は？

(車速や、どんな作業をしていたときに)

●どのくらい使用されましたか？

(約□□時間使用后)

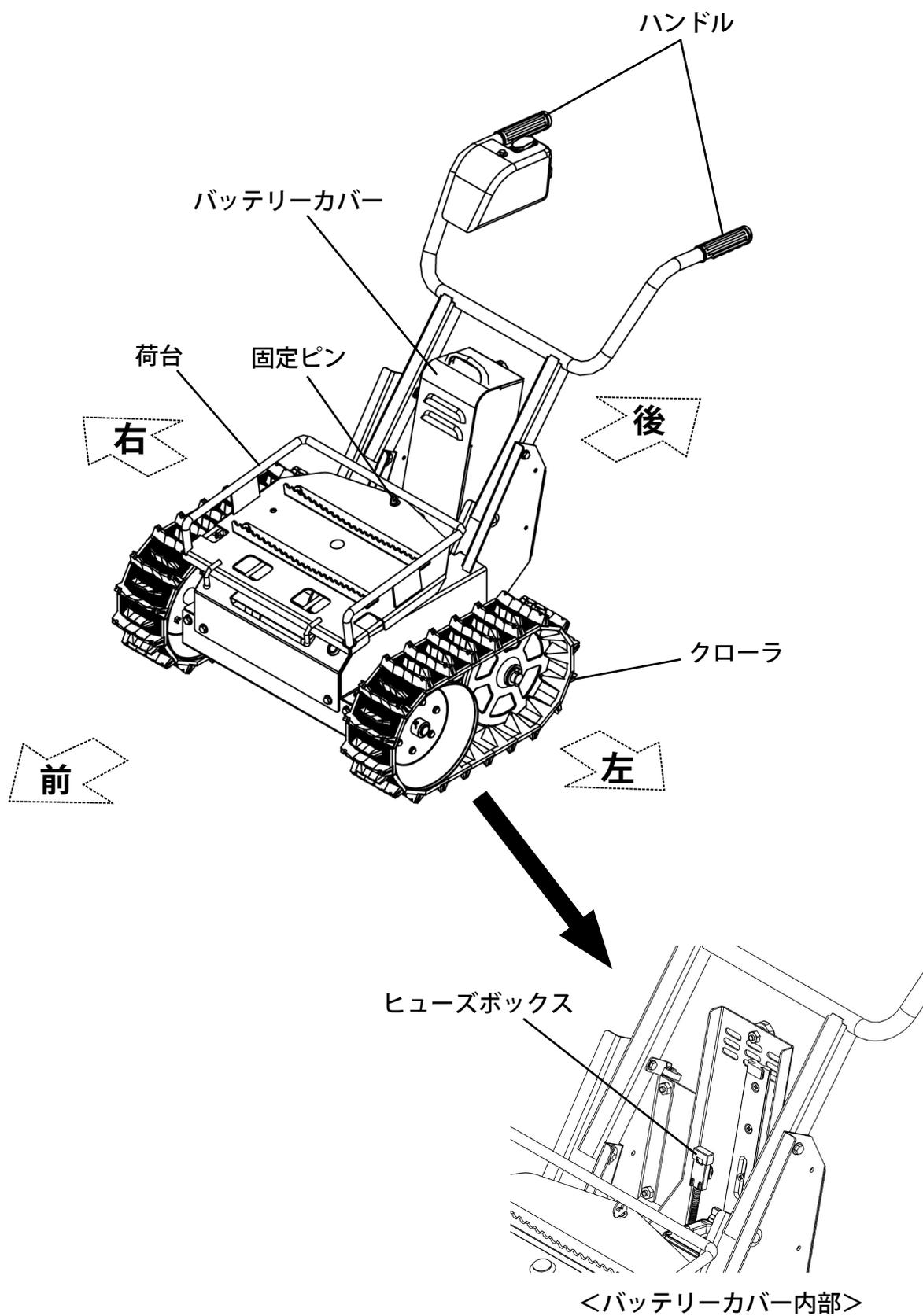
●不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えてください。

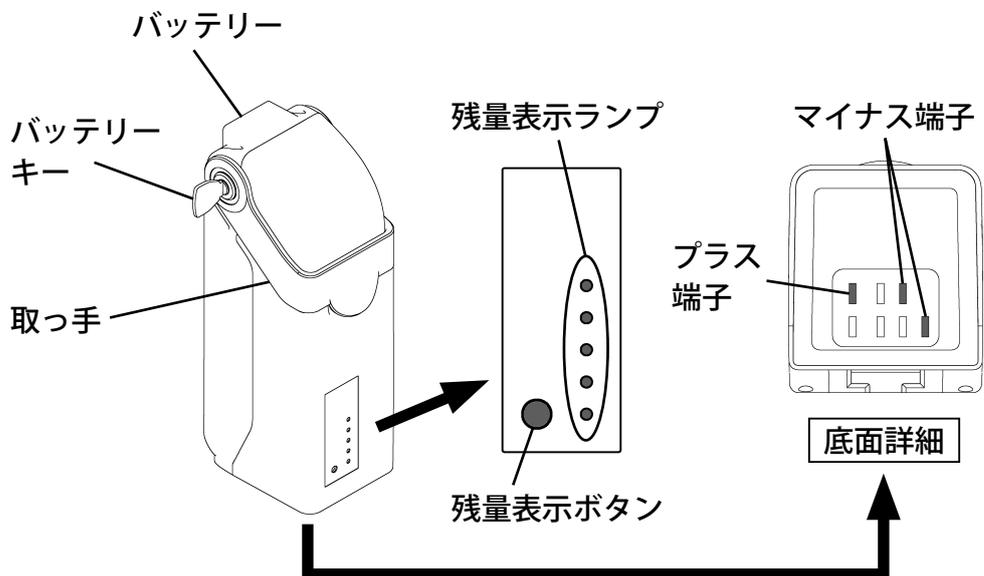
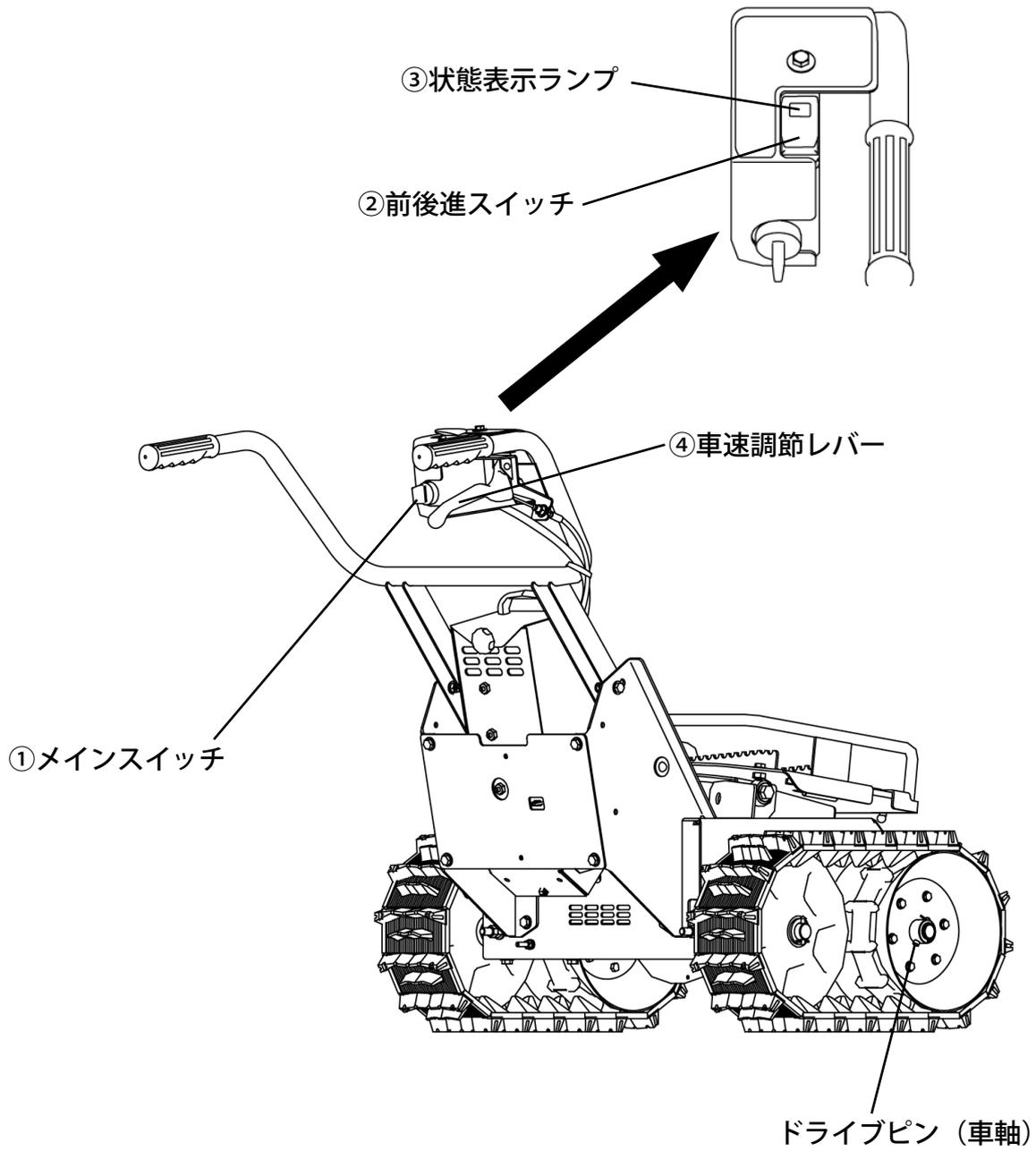


### 補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

### 3章 各部のなまえ





## 4章 各操作部のはたらき

### ① メインスイッチ

モーターを起動、停止させるときに操作します。

「切」・・・・・・・・電源がOFFになる位置です。

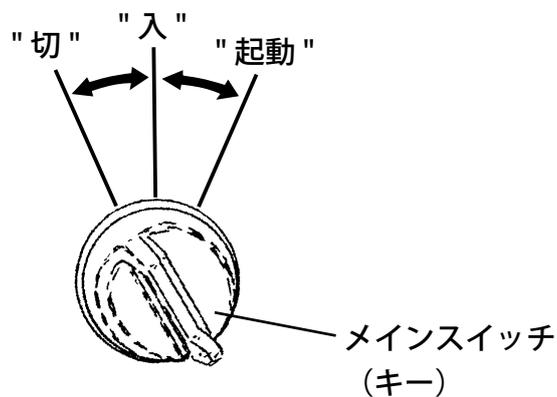
(キーの抜き取り、差し込みができます。)

「入」・・・・・・・・電源ONの状態を保持する位置です。

電源をONにするには、一度「起動」位置まで回す必要があります。

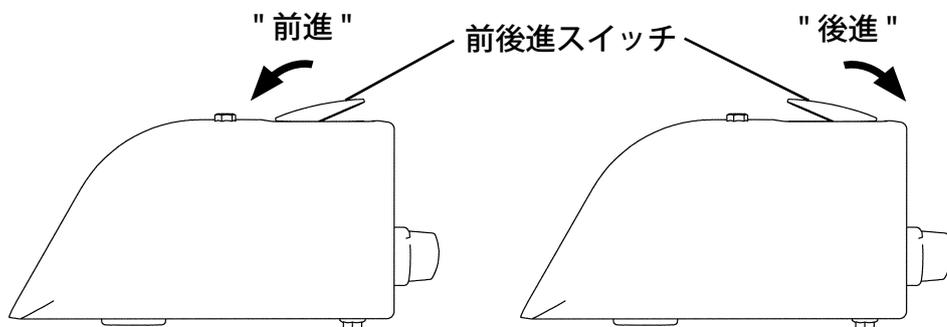
「起動」・・・・・・・・電源をONにするときにこの位置まで回します。

キーから手を離すと自動的に「入」位置に戻ります。



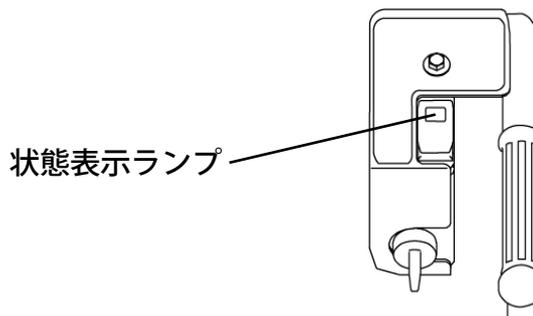
### ② 前後進スイッチ

前後進を切り換えるときに操作します。



③ 状態表示ランプ

本機の状態を表示します。  
 主な表示内容は以下の通りです。



<状態表示ランプの主な表示内容>

本機の状態	ランプの状態	表示内容
電源ON	点灯	バッテリー残量が一定以上
	17～67回 ／10秒の点滅	バッテリー残量が減少 (点滅が早いほど残量少)
	1回／秒の短い点滅	バッテリー残量が減少 (走行停止)
	1回点滅	モータードライバー内部エラー
	2回点滅	過電流検出
	3回点滅	モータードライバー過熱
	6回点滅	モータードライバーエラー
	5回／秒の短い点滅	モーターロック検出

モーターロックにより状態表示ランプが点滅した場合は、車速調節レバー（P. 27 参照）を一度放すと、点滅が解除されます。

**[重要]**

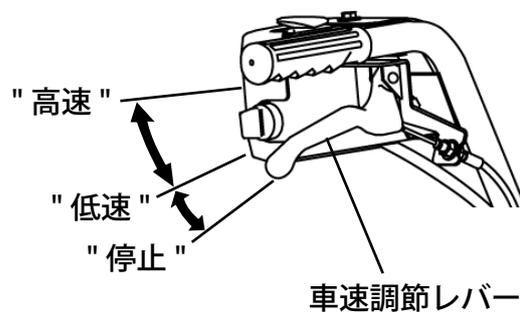
機体の温度が上昇すると、エラーが出ることがあります。エラーが出た場合は日陰に移動してメインスイッチを切り、機体の温度を下げてください。

## 4章 各操作部のはたらき

### ④ 車速調節レバー

運搬車を走行させるときに操作します。

速度を無段階に調節することができ、放すと走行が停止します。



**危険**



車速調節レバーを改造したり、固定して運転しないでください。

本機が停止せず、ひかれ・挟まれなどによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。

## 5章 運転前の準備・点検

快適で安全な作業をするためには、機械の状態をいつも最良にしておくことが大切です。運転・作業を行う前には、機械の始業点検を行ってください。



- ・点検、整備を行うときは、必ず平坦なところでバッテリーを外してから行ってください。守らないと、思わぬ傷害事故の原因となります。



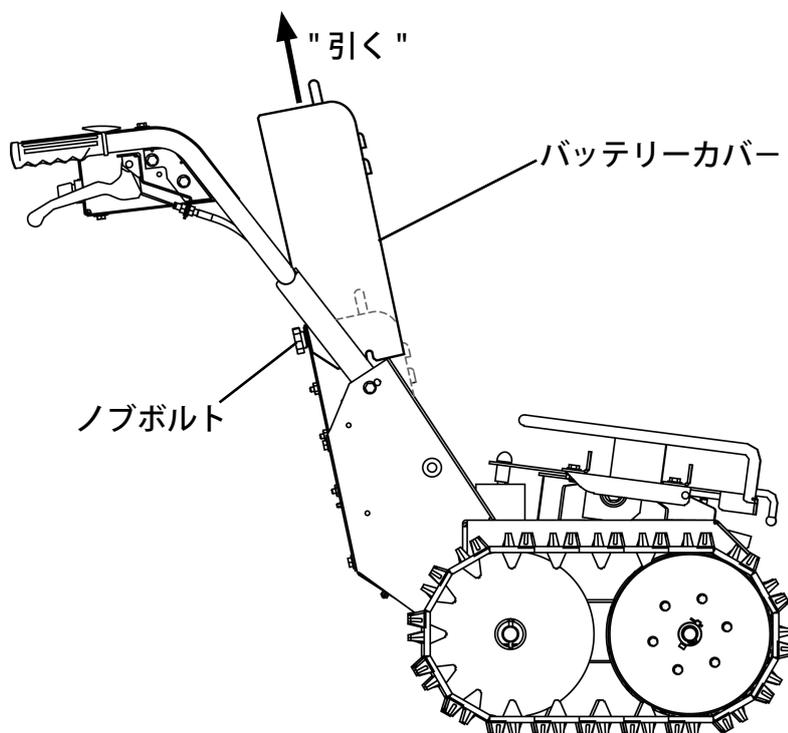
- ・点検、整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

### 1. 始業点検一覧表

点検・調整箇所	種類・規定量・サイズ	内容	参照ページ
状態表示ランプのエラー表示	—	点検	26
車速調節レバー	—	点検	35
荷台	—	点検	35
ドライブピン（車軸）	—	点検	35
クローラ	—	点検	35
ヒューズ	—	点検	35
バッテリー	リチウムイオン電池 25.2V / 14.5Ah	点検・補充電	31
各部の締め付け	—	点検	35
各部の作動状態	—	点検	35
前回作業時の異常箇所	—	点検	35

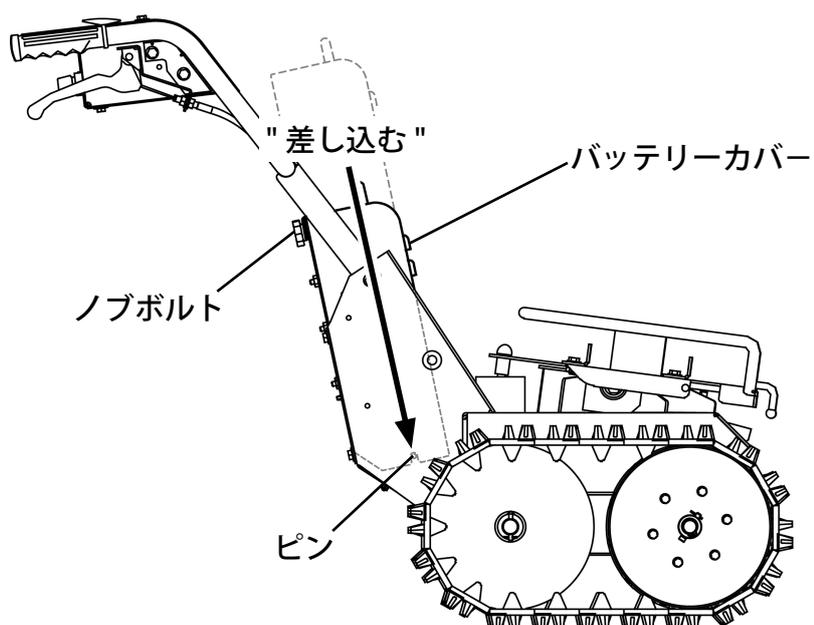
## 2. バッテリーカバーの取り外しかた

ノブボルトを緩め、バッテリーカバーを引き出します。



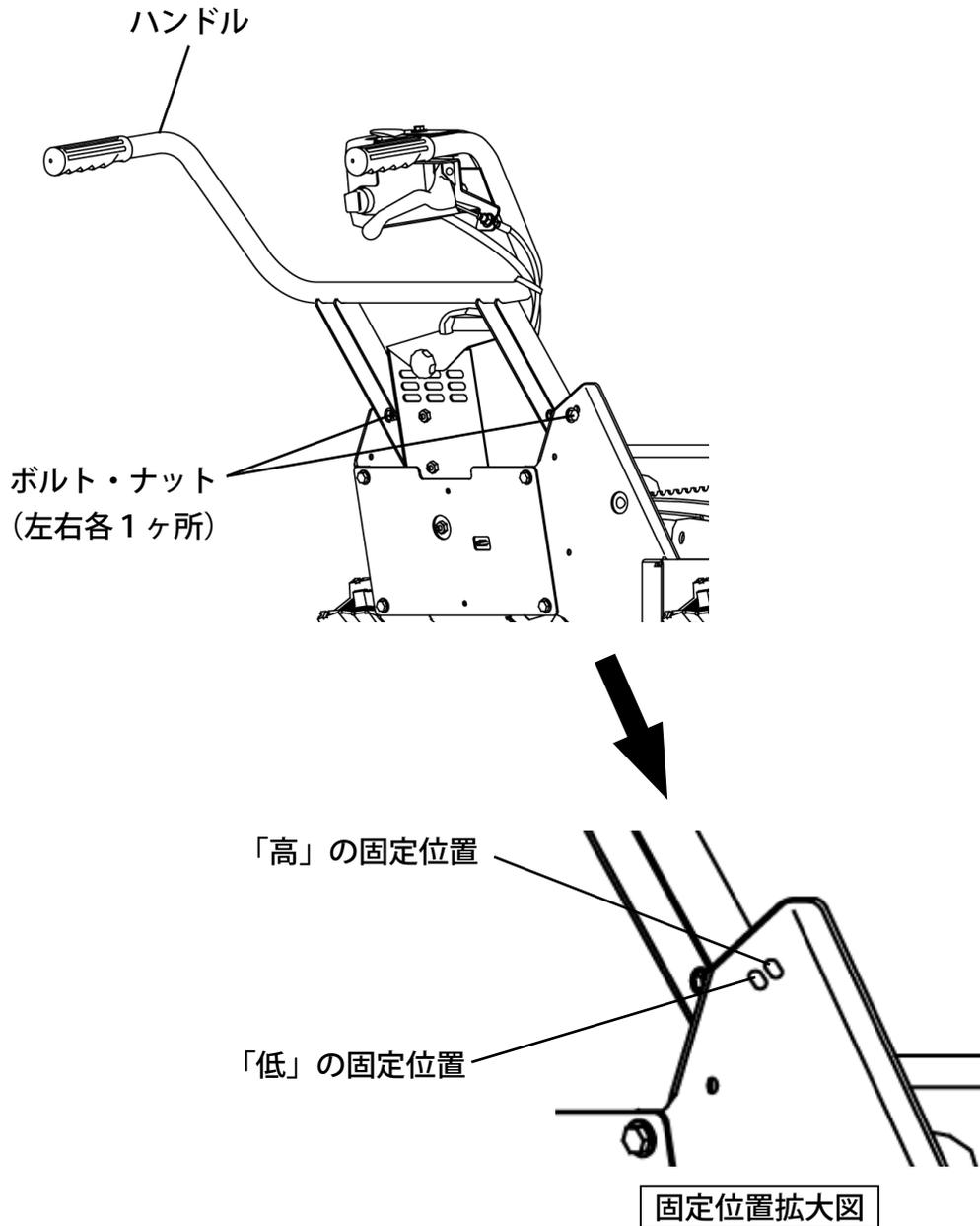
## 3. バッテリーカバーの取り付けかた

バッテリーカバーの溝を本機のピンに合わせて差し込み、ノブボルトを確実に締めて固定します。



## 4. ハンドル高さの調節のしかた

ハンドルを固定しているボルトとナット（左右各1ヶ所）を取り外して固定位置を変更することにより、ハンドルと操作部の高さを「低」と「高」の2段階に調節できます。調節後は、ボルトとナットを確実に締め付けてください。



### ⚠ 注意

ハンドルの稼働部位に手を入れないでください。守らないと、挟まれてケガをするおそれがあります。

## 5. バッテリー

### <点検>

バッテリーカバーを取り外して（P. 29参照）、バッテリー残量が十分あるか点検してください。（P. 32参照）

残量が少ない場合は充電してください。

バッテリー周辺を点検し、液モレがないか確認してください。

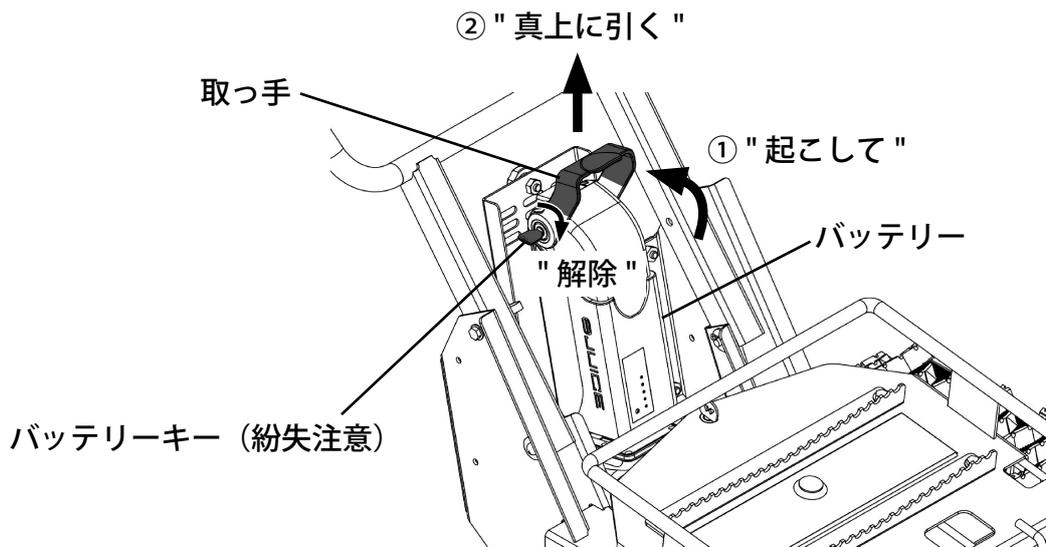
#### 指定バッテリー

品番・・・82100-B89-001

品名・・・バッテリー LEV-0705

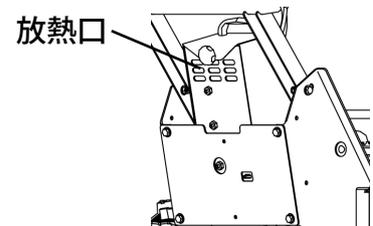
### <本機からの取り外しかた>

- 1) バッテリーキーを「解除」位置にします。
- 2) 取っ手を起こして、バッテリーを上へ引いて外します。



### [重要]

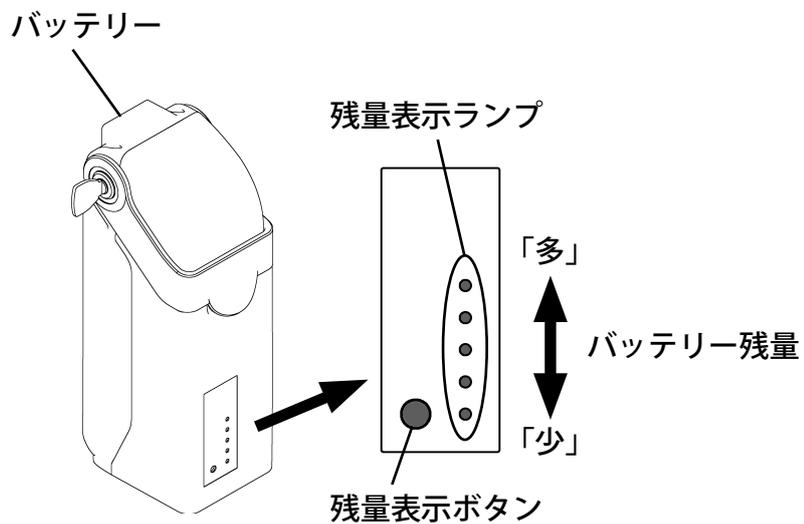
- ・バッテリー非搭載時は、本機を屋外に長時間放置しないでください。放熱口から水が入り込み、バッテリー端子部に水がたまって通電不良を起こしたり、故障するおそれがあります。



- ・バッテリーキーがなくても本製品にバッテリーを取り付けることはできますが、バッテリーキーがないと本製品からバッテリーを取り外すことはできません。

＜残量の確認のしかた＞

残量表示ボタンを押すと、残量表示ランプが点灯します。  
残量が減ると、点灯するランプの数が少なくなります。



<充電のしかた>

付属の充電台にセットして充電します。

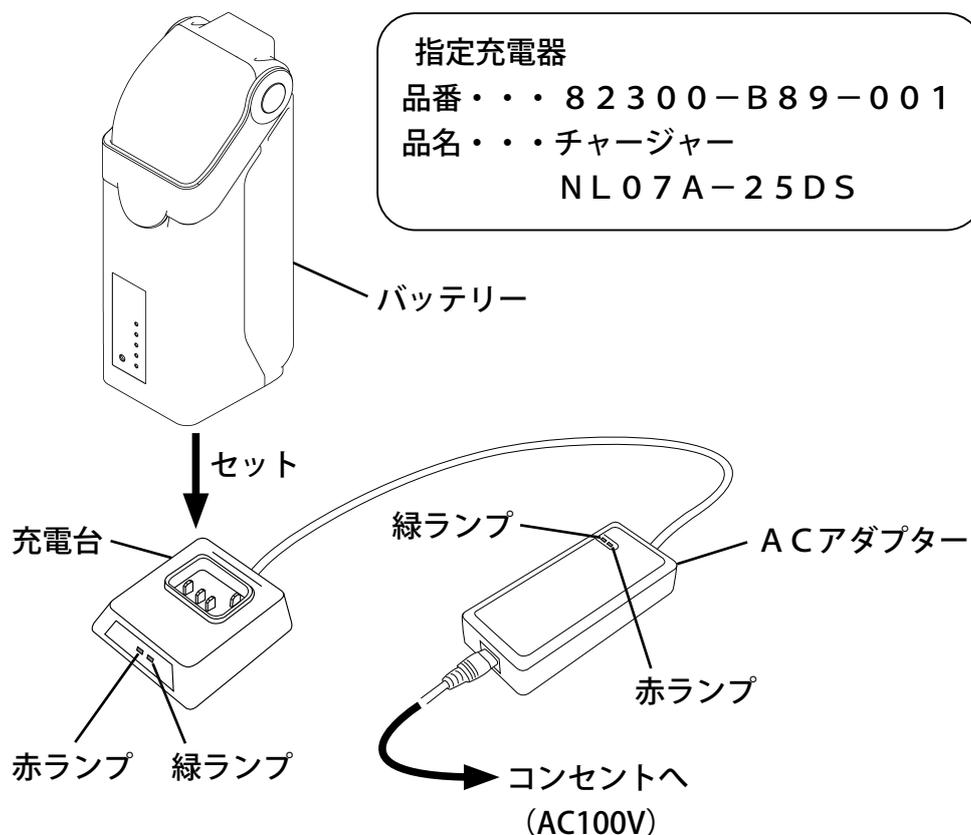
残量が空の状態から満充電までの標準充電時間は約6時間です。

充電器のランプの表示内容は次ページを参照してください。

**[重要]**

充電可能温度範囲・・・10℃～40℃

充電可能湿度・・・70%以下



**[重要]**

充電完了、充電停止の時は電源プラグをコンセントから抜いてください。

**[参考]**

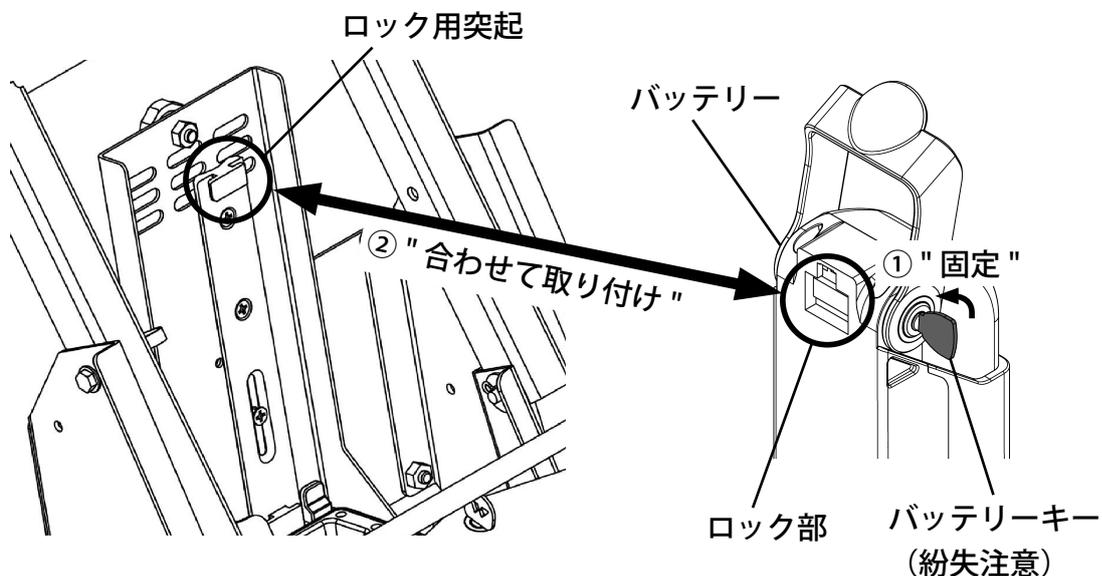
- ・バッテリーが熱くなっている場合は、充電器にセットしても充電されません。バッテリーが冷めると自動的に充電が開始されます。
- ・充電器やバッテリーは、充電中少し熱くなることがありますが故障ではありません。

＜充電器のランプ表示内容一覧＞

ランプ表示		状態
赤ランプ	緑ランプ	
3回点滅後に消灯	消灯	・電源ON
点灯	消灯	・通常充電中
点滅	消灯	・予備充電中 (バッテリー電圧が一定以下の場合)
消灯	点灯	・充電完了
消灯	遅い点滅	・低温充電中(充電時間が長くなります) (バッテリー温度 0℃～10℃)
消灯	速い点滅	・充電停止(温度警告1) (バッテリー温度0℃以下、または、40℃以上)
交互に点滅 (販売店へ連絡し 修理を受けて ください)		・充電停止(温度警告2) (バッテリー温度 50℃以上) ・充電異常 ・回路短絡 ・過電流 ・過電圧

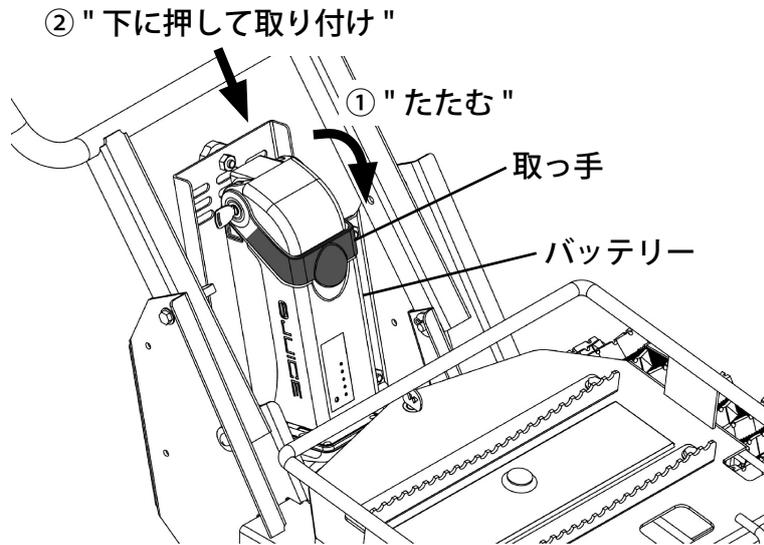
＜本機への取り付けかた＞

- 1) バッテリーキーを「固定」位置にします。
- 2) ロック用突起にバッテリーのロック部を合わせて取り付けます。



## 5章 運転前の準備・点検

- 3) 取っ手をたたみ、カチッと音がするまでバッテリーを下に押しします。バッテリーキーが「固定」位置の場合、キーが外れますので紛失に注意してください。



## 6. その他の点検

次の点検も忘れずに行ってください。

- 1) 車速調節レバーを離したとき、本機が停止するか。
- 2) 荷台が正常に稼働するか。(P. 45を参照して、固定ピンを抜き取った状態で回転可能か確認してください。)
- 3) ドライブピン(車軸)は切れていないか。  
(P. 50を参照して、点検・交換してください。)
- 4) クローラの損傷、ゆるみはないか。
- 5) ヒューズは切れていないか。  
(P. 50を参照して、点検・交換してください。)
- 6) 各部の締め付け、ゆるみ、ガタはないか。
- 7) 各部の作動状態は正常か。
- 8) 異常箇所・・・前回作業時、ぶつかったり、調子が悪かったところはないか。  
(異音、振動、異臭など)

## 6章 運転・移動のしかた

### 1. 発進のしかた

**危険**



車速調節レバーを改造したり、固定して運転しないでください。  
本機が停止せず、ひかれ・挟まれなどによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。

**警告**

- ・発進するときは、周囲の安全を確認してください。
- ・周囲に人がいる場合は、必ず発進の合図をしてください。  
守らないと、傷害事故の原因になります。
- ・発進はゆっくり行ってください。急発進をすると、傷害事故の原因になります。
- ・後進するときは低速で行い、転倒しないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認して、障害物と機械の間に挟まれないようにしてください。  
守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- ・走行中はわき見運転や手放し運転をしないでください。  
守らないと、思わぬ事故の原因になります。

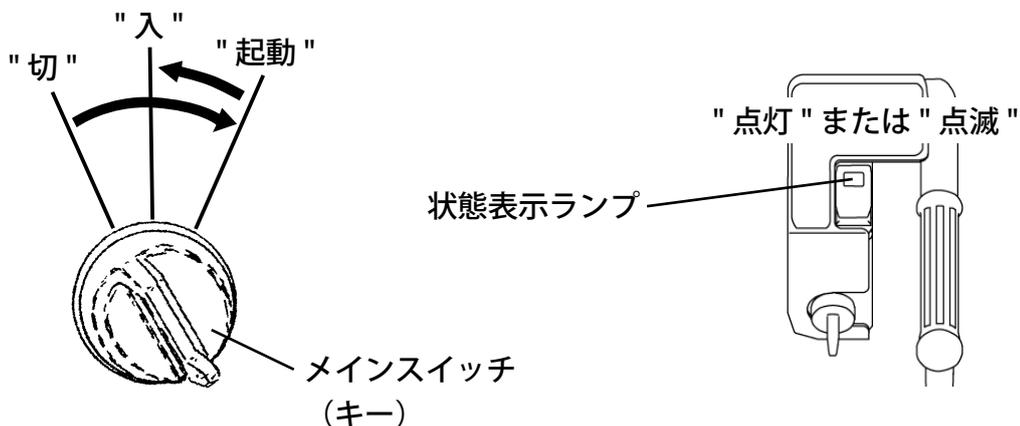
**[重要]**

水たまりはできるだけ避けて走行してください。  
本機が水没した場合は、お買い上げいただいた販売店に連絡し、修理を受けてください。

1) メインスイッチを「起動」位置まで回して、手を離します。

(キーは「入」位置まで自動的に戻ります。)

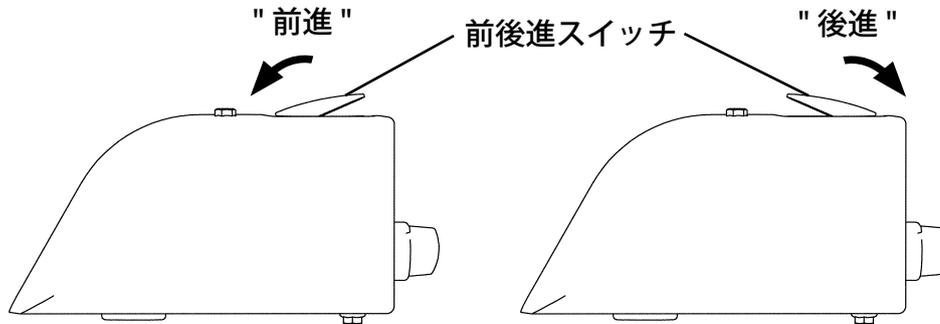
起動すると、状態表示ランプが点灯、または、点滅します。



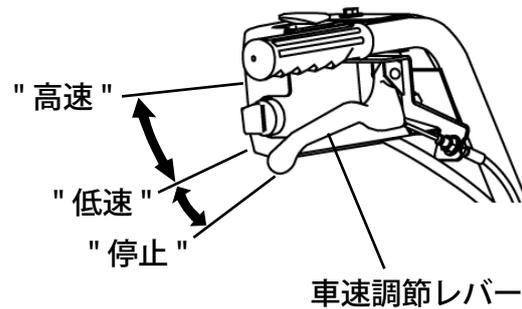
**[参考]**

車速調節レバーを握った状態でメインスイッチを回しても、起動しません。

2) 前後進スイッチを「前進」または「後進」に入れて、進行方向を決めます。



3) 車速調節レバーを握ると発進します。  
速度を無段階に調節することができ、放すと走行が停止します。



## 2. 旋回のしかた

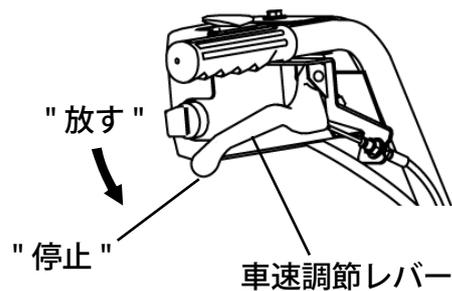
ハンドルを左、または、右に引いて旋回します。



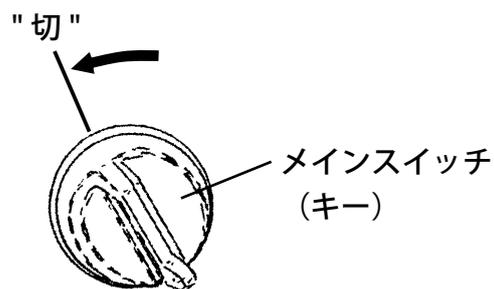
- ・高速での急旋回は危険です。必ず速度を落として行ってください。守らないと機械の転倒・暴走などの事故の原因になります。
- ・急な坂道での旋回操作はしないでください。守らないと機械の転倒・暴走などの事故の原因になります。やむを得ないときは、横転や反対方向への曲がり注意到注意して、低速でゆるやかな旋回の操作をしてください。

## 3. 停車・駐車のしかた

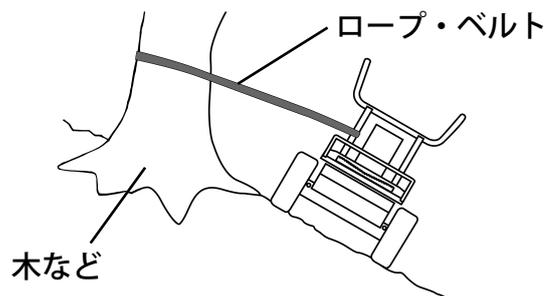
- 1) 駐車する場合は、平坦で安全な場所へ移動します。坂道で駐車・停車する場合は、本機をトラバース（坂を横切る）方向に向けます。
- 2) 車速調節レバーから手を放して「停止」位置にします。



- 3) メインスイッチを「切」位置にします。



- 4) 坂道で駐車し長時間本機から離れる場合は、ロープやベルトを用いて本機が転落しないように固定します。



## 4.トラックでの運搬のしかた



- ・積み込み・積み降ろしをする場所は、平坦で安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- ・積み込むトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- ・アユミ板は基準に合ったものを使用してください。守らないと、転落事故の原因になります。
- ・本機の前後には人を立たせないようにしてください。機械が不意に動いたときに、思わぬ事故をまねくおそれがあります。
- ・トラックの荷台に積み込んだ機械は、丈夫なロープで確実に固定してください。守らないと、転落事故の原因になります。

### 4-1. アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

#### <アユミ板の基準>

強度：機体の重量+作業者の体重に十分耐える強度のあるもの  
幅：機械のクローラ幅の1.2倍以上  
長さ：荷台の高さの4倍以上  
表面：すべり止めのあるもの  
：荷台に引っ掛けるためのフックのあるもの

### 4-2. トラックの準備

- 1) トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。
- 2) トラックの変速は、「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けてください。
- 3) タイヤに車止めをしてください。
- 4) トラックの荷台にアユミ板のフックを、段差ができないように確実に掛けてください。



- ・機械がアユミ板と荷台の継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので、最低速度で慎重に移動してください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。
- ・積み込み・積み降ろしを行うときは、必ずハンドルを持った状態で行ってください。守らないと、機械のバランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。



### アユミ板の上では進路変更や停止をしない。

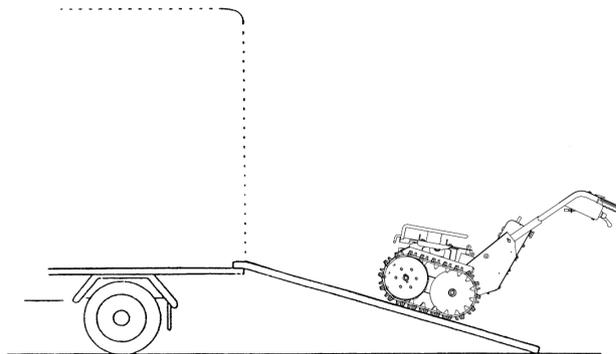
トラックへの積み込み・積み降ろしは、アユミ板の上で進路変更をしないように進路を定めて低速で行ってください。

また、アユミ板の上では停止しないでください。

守らないと、転落などの事故をまねくおそれがあります。

#### 4-3. 運搬車の積み込みかた

- 1) アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように方向を定め、「前進」で慎重に積み込んでください。



- 2) 積み込み位置まできたら、P.38「3. 停車・駐車のしかた」を参照し、駐車してください。
- 3) ハンドルパイプなどのしっかりした部分に十分強度のあるロープを掛けて、機械を確実に固定してください。

#### 4-4. 運搬車の降ろしかた

- 1) 機械を固定しているロープを外してください。
- 2) 運搬車は、「後進」で慎重に降ろしてください。

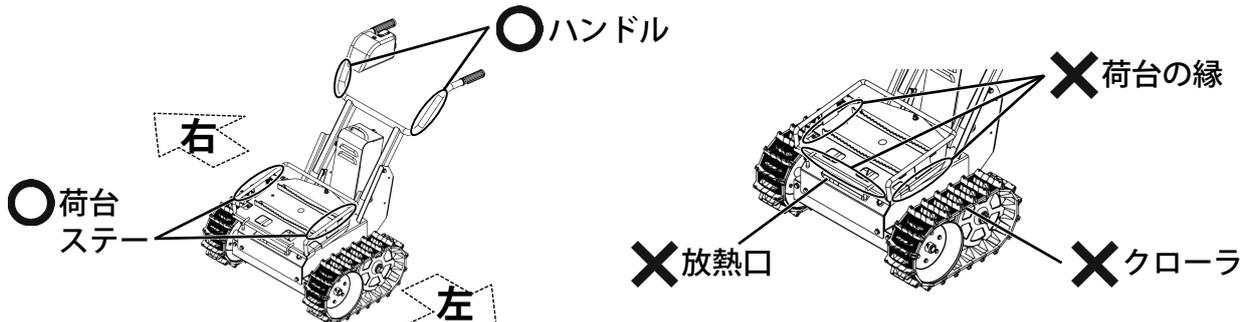


本機を持ち上げて積み込みや積み下ろしを行う際は、必ず2人で行ってください。

荷台は固定し（P.45「3. 荷台回転の固定・可動の切り替え」を参照）、

左右1人ずつで、ハンドルと荷台のステーを持って運んでください。

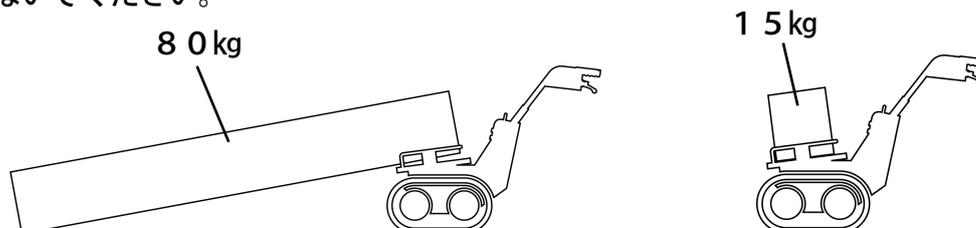
荷台の縁や、クローラ、放熱口は持たないでください。守らないと、手を挟むなど思わぬ傷害事故のおそれがあります。



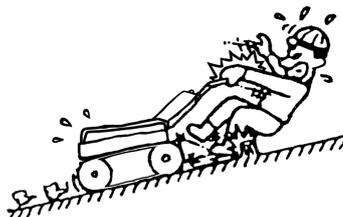
## 7章 牽引作業のしかた



- ・使用可能な傾斜角度は、上り下りの場合は $25^{\circ}$ 、トラバース（坂を横切る）走行の場合は $15^{\circ}$ です。それ以上の傾斜では使用しないでください。また、積載物がある場合や、牽引作業をしながらのトラバース走行は極力避けてください。
- ・本機の木材最大牽引量は $80\text{kg}$ です。また、最大積載量は $15\text{kg}$ です。規定を超える積載はしないでください。



- ・急な坂道での牽引作業はしないでください。転倒やスリップによる事故のおそれがあります。
- ・枝などの異物がクローラに絡みついた場合は、メインスイッチを切ってから異物を取り除いてください。異物を取り除いた後、車輪、クローラに異常がないか点検してください。
- ・後進の場合は、障害物は乗り越えないでください。また、前進の場合でも、高さ $30\text{cm}$ 以上の障害物は避けて走行してください。転倒や事故の原因となることがあります。
- ・後進で坂を上らないでください。思わぬ傷害事故の原因となります。



- ・機械の回転部、可動部は、注意をおこたったり取扱いを誤ると大変危険です。牽引作業にあたっては、安全のためP. 42～P. 45の要領で行ってください。

### [重要]

- ・作業後、クローラなどの走行部の泥汚れがひどい場合は、水洗いを行ってください。
- ・本機を高所（高さ $1\text{m}$ 以上）より落下させた場合は、販売店に点検を依頼してください。

### [参考]

- ・寒冷地ではバッテリー能力が低下し、牽引能力が発揮されない場合があります。環境温度が上がると復帰します。
- ・後進で坂を登ったり、上げ荷作業をすると、負荷が増加し、稼働時間が減少します。
- ・オペレーター補助（作業者が本機を引っ張り、牽引補助をすること）が必要な走行は過負荷作業のため、連続して行わないでください。常にオペレーター補助が必要な程の木材牽引は避けてください。
- ・バッテリーを2パック使用して連続で走行すると、電子部品が高温になり電源が落ちたり、モータードライバー過熱エラー（P. 26参照）が出ることがあります。メインスイッチを切り、 $30\sim 60$ 分程度冷却すると復帰します。

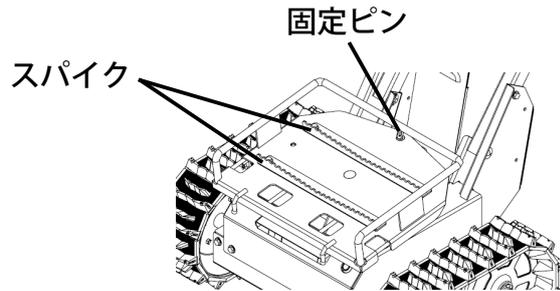
## 1. 木材の固定



- ・坂道で作業する場合は、作業者は本機や木材よりも谷側に立たないでください。守らないと、本機が転落した際に巻き込まれるなど、思わぬ事故の原因となります。
- ・木材を固定する際は、固定ピンを差し込んで荷台を固定してください。守らないと、荷台が急に回転し、思わぬ傷害事故の原因となります。



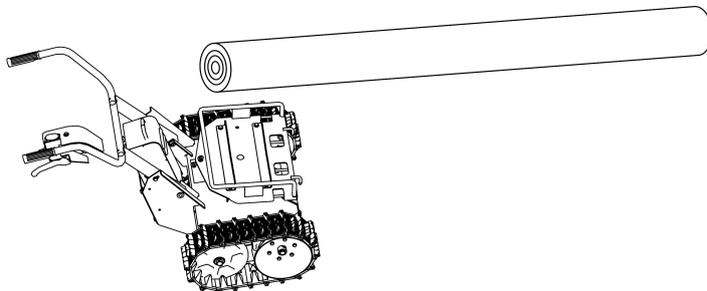
- ・木材の積み込みや固定をする際は、荷台のスパイクでケガをしないよう十分注意してください。



牽引可能な木材の大きさは、下記の通りです。

広葉樹：直径 30 cm × 長さ 2 m 重さ 80 kg まで  
 針葉樹：直径 30 cm × 長さ 4 m 重さ 80 kg まで

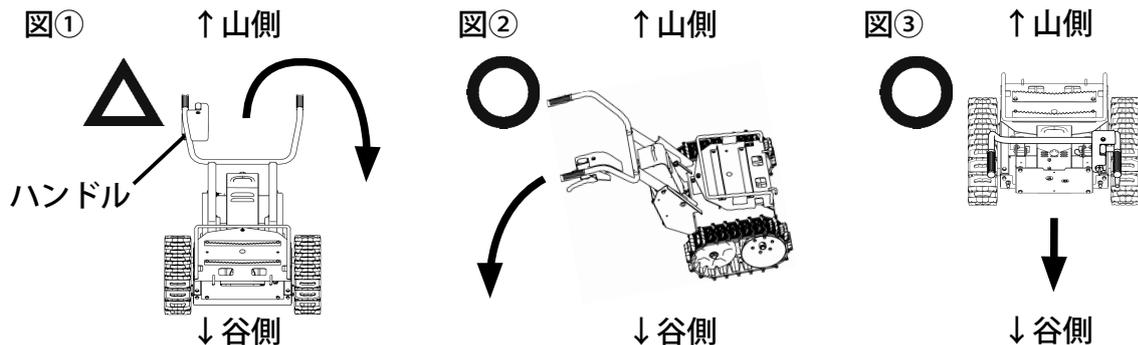
1) 本機を木材の横に停止させます。



### [参考]

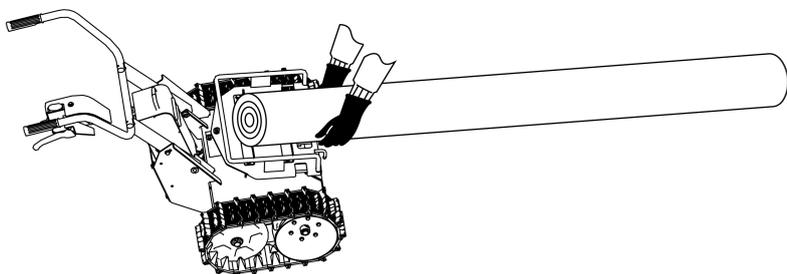
図①のように本機のハンドルを山側に向けて停止させると、発進後に大きな旋回が必要となり、クローラが外れたり、横転するおそれがあります。

図②～③のようにハンドルをできるだけ谷側に向けて停止させると、発進後牽引しやすくなります。



## 7章 牽引作業のしかた

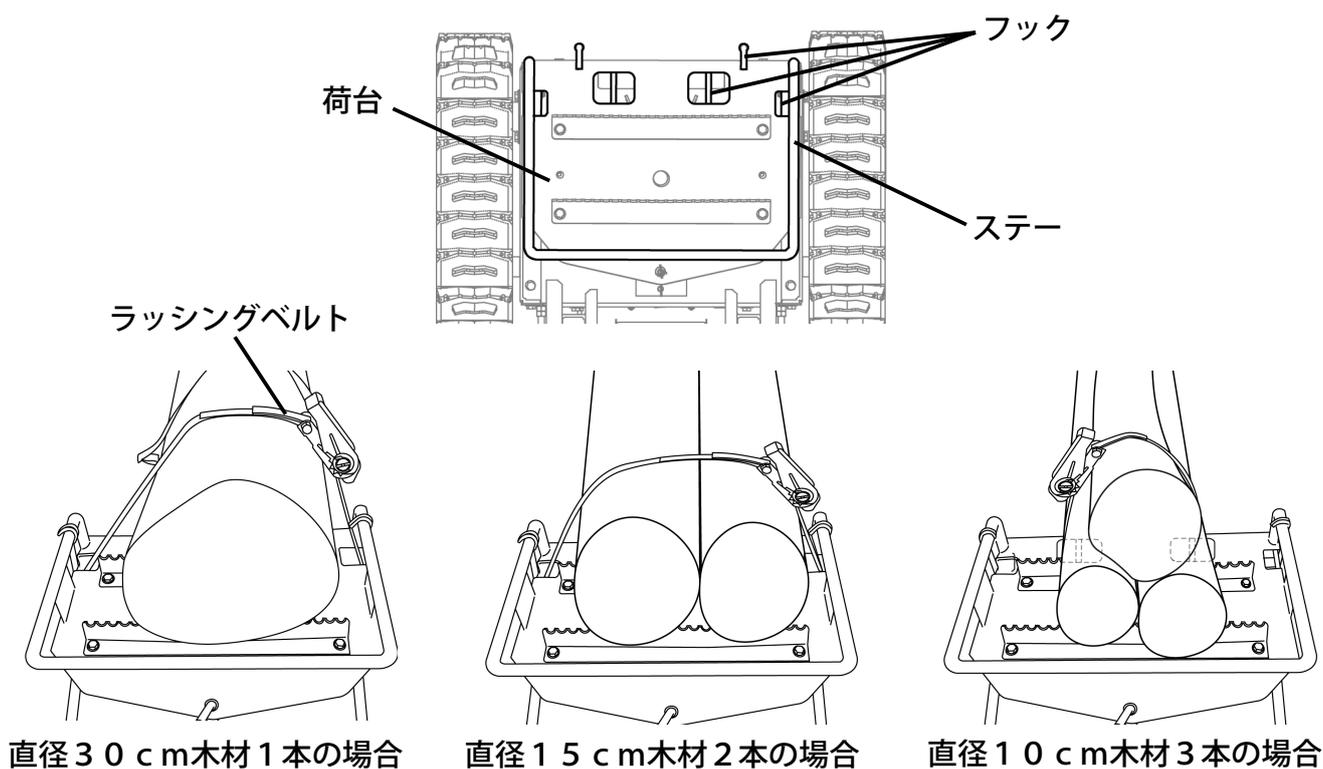
- 荷台を固定します。（P. 45 「3. 荷台回転の固定・可動の切り替え」を参照）
- 木材を積み込みます。木材は荷台の中央に載せてください。



### ⚠ 注意

木材とスパイクの間に指を挟まないよう注意してください。

- 木材を付属のラッシングベルトで固定します。荷台のステーやフックは木材の大きさに合わせて使用してください。  
ラッシングベルトの使い方は、別冊のラッシングベルト取扱説明書を参照ください。

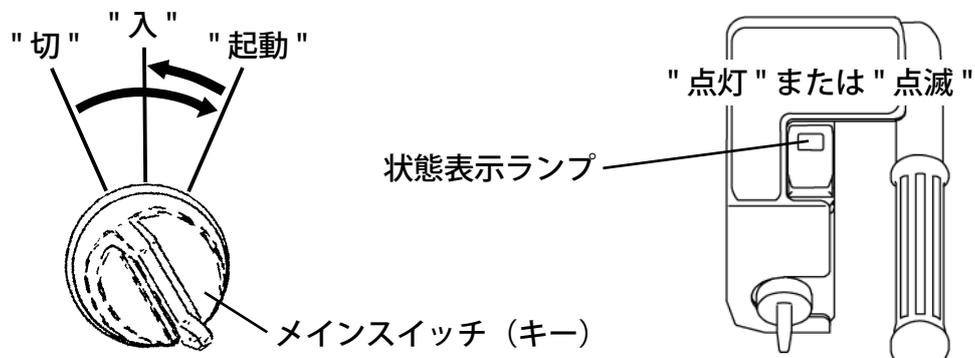


### [参考]

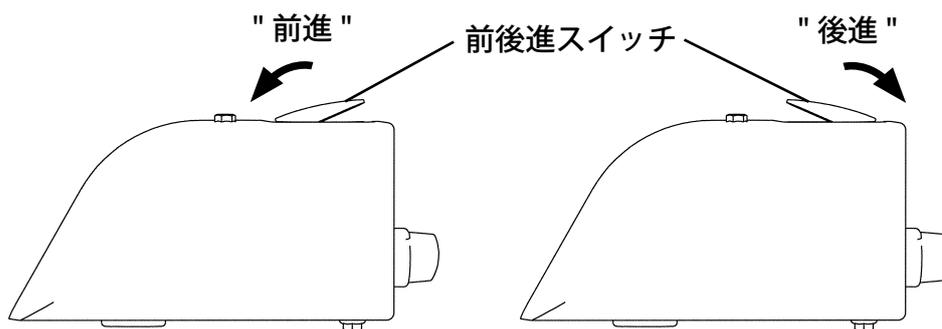
曲木やコブがある木材の場合は、木材が接地する部分を少なくすると、牽引しやすくなります。

## 2. 発進の要領

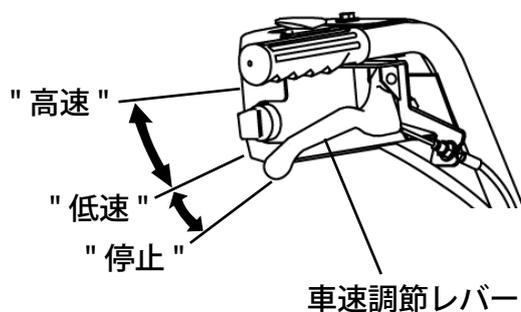
- 1) 荷台を可動できるようにします。(P. 45「3. 荷台回転の固定・可動の切り替え」を参照)
- 2) メインスイッチを「起動」位置まで回して、手を離します。  
(キーは「入」位置まで自動的に戻ります。)  
起動すると、状態表示ランプが点灯、または、点滅します。



- 3) 前後進スイッチを「前進」または「後進」に入れて、進行方向を決めます。



- 4) 車速調節レバーを握ると発進します。  
速度を無段階に調節することができ、放すと走行が停止します。



### 3. 荷台回転の固定・可動の切り替え



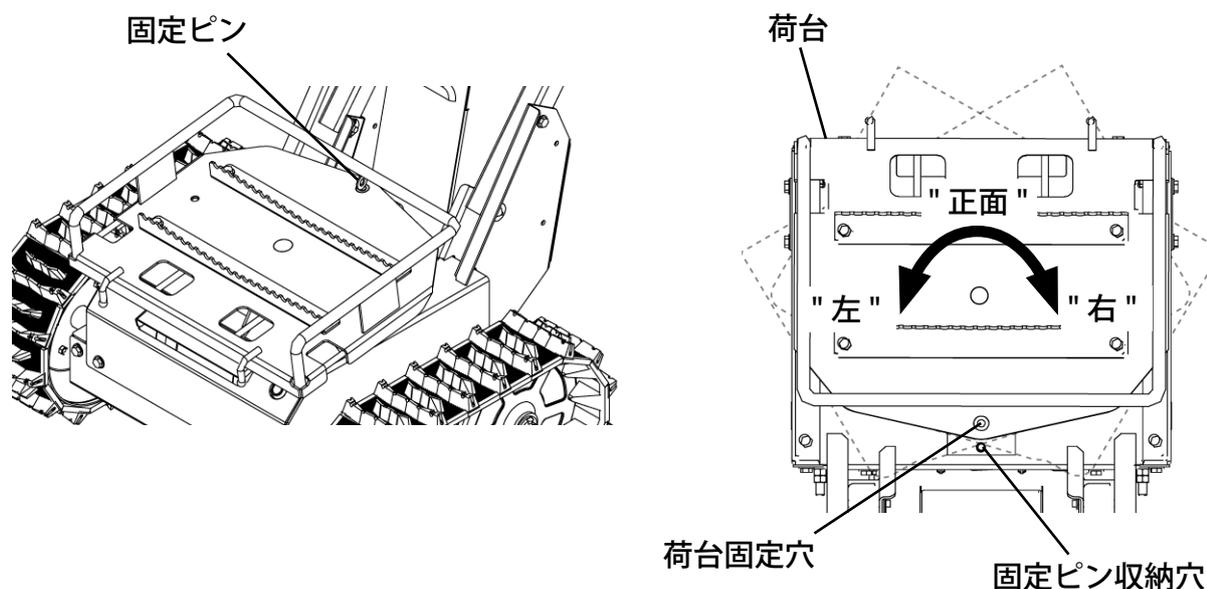
荷台回転の切り替えはメインスイッチを切ってください。  
守らないと機械に巻き込まれ重傷を負うおそれがあります。

#### <荷台回転の切り替えのしかた>

1) メインスイッチを「切」位置にします。



2) 固定ピンを荷台固定穴から抜き取ると、荷台が回転可能になります。  
抜き取った固定ピンは、固定ピン収納穴に差し込みます。



3) 荷台を固定する場合は、荷台を正面に戻し、固定ピンを荷台固定穴に差し込んでください。

#### [重要]

牽引作業時は、荷台を回転可能にして使用してください。

## 8章 定期点検

### 1. 定期点検

お客様ご自身で行っていただける点検・整備項目の他に、お買い上げいただいた販売店で定期的実施していただく項目があります。機械の整備不良による事故を未然に防止するため、整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

2. 点検・整備項目一覧表（★の項目については適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げいただいた販売店にお申し付けください。）

点検・調整箇所	内容	時期	参照ページ
バッテリー	残量点検	半年毎（長期保管時）	32
	交換	3～5年毎 または 水没した場合★	—
クローラ	張り調整	1ヶ月毎 または 異物噛みこみ、 クローラ外れが発生した場合	49
	交換	2年毎★	—
ヒューズ	交換	必要に応じて	50
ドライブピン（車軸）	交換	必要に応じて	50
ドライブピン（チェンスプロケット）	点検	1年毎	51
	交換	必要に応じて	51
テーブルベースカバー内部	清掃	1年毎	51
電気部品・配線コード	点検	1年毎★	—
走行チェン	グリースアップ	1ヶ月毎	52
	摩耗・張り点検・調整	1年毎★	—
	交換	2年毎★	—
足回り	グリースアップ	1ヶ月毎	52
	点検	1年毎	—
クローラスプロケット・誘導輪	点検	1年毎★	—
	交換	2年毎 または 必要に応じて★	—
モーター	交換	2年毎 または 異音・異臭・水没などした場合★	—
各ワイヤー	点検・調整	1年毎★	—

#### [重要]

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

ゴム類、その他の有害物質を廃棄または焼却するときは、法令に従い適正に処理してください。

不明な場合は購入先または産業廃棄物処理業者にご相談の上処理してください。

※ 廃棄物処理法、水質汚濁防止法

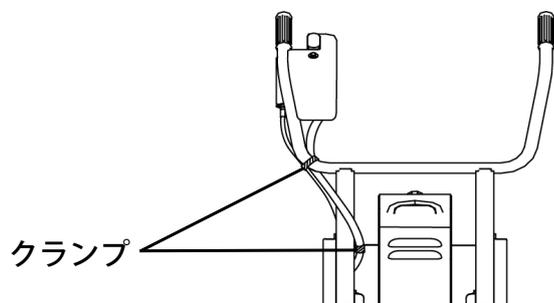
不要になったバッテリーは、廃棄せずにお買い上げいただいた販売店までご持参ください。

## 9章 点検・整備のしかた

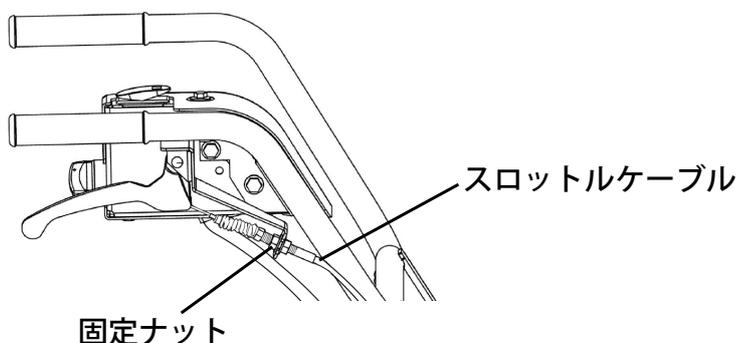
### 1. バッテリーベースカバー・テーブルベースカバーの取り外しかた

〈必要工具〉 12mmのスパナ

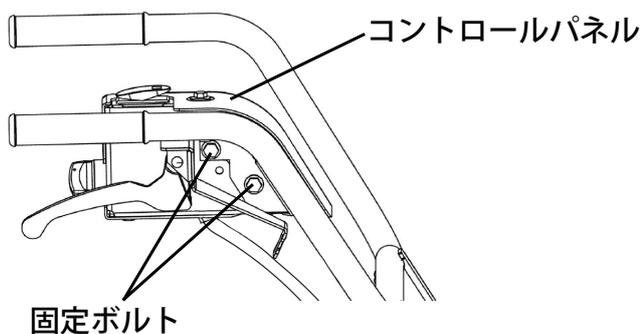
- 1) バッテリーを取り外します。(P.31参照)
- 2) ワイヤー・ハーネスのクランプ(2ヶ所)を取り外します。



- 3) スロットルケーブルの固定ナット(1ヶ所)をゆるめ、スロットルケーブルを取り外します。  
このとき、固定ナットを外した位置がわかるようにしてください。

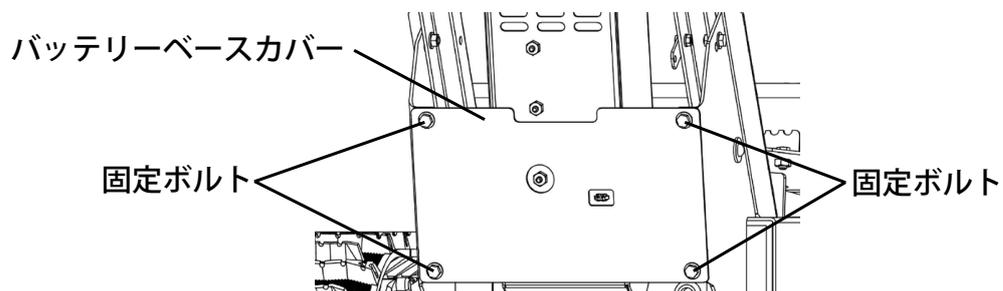


- 4) コントロールパネルの固定ボルト(2ヶ所)を外し、コントロールパネルを取り外します。



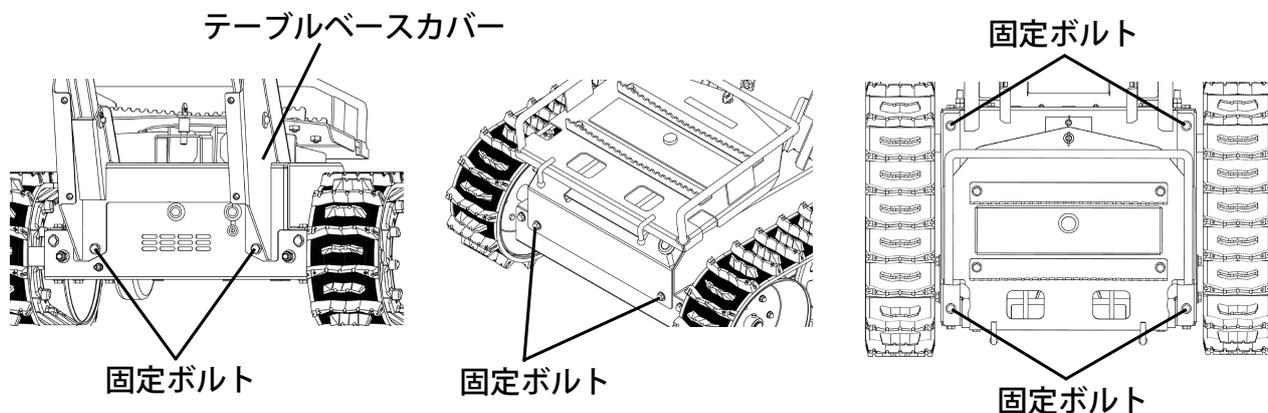
- 5) バッテリーベースカバーの固定ボルト(4ヶ所)を外し、バッテリーベースカバーを取り外します。

取り外したバッテリーベースカバーを置くときは、バッテリーベースカバーに繋がっているハーネスが突っ張らないようにしてください。



6) テーブルベースカバーの固定ボルト（8ヶ所）を外し、テーブルベースカバーを取り外します。

点検整備後は元通りに取り付けてください。



**[参考]**

バッテリーベースカバーとテーブルベースカバーは、ドライブピン（チェンスプロケット）の点検や、ベースカバー内部の清掃時などに開閉します。

## 2. バッテリー残量

<点検時期> 半年毎（長期保管時）

<点検のしかた>

P. 32を参照し、点検してください。

**[重要]**

バッテリーの寿命を長持ちさせるため、以下の内容に従ってバッテリーの点検、保管をおこなってください。

- ・半年毎にバッテリー残量を点検してください。
- ・バッテリー残量「1個点灯」以下では保管しないでください。
- ・長期間保管時には、バッテリー残量「3個点灯」程度で、本機から外して、湿気やホコリが少なく涼しい場所に保管してください。

### 3. クローラ張り調整

**[重要]**

クローラの張り出し寸法が正常でないと、クローラが外れたり、寿命を著しく縮める原因になります。

＜調整時期＞

1ヶ月毎または異物噛みこみ、クローラ外れが発生した場合

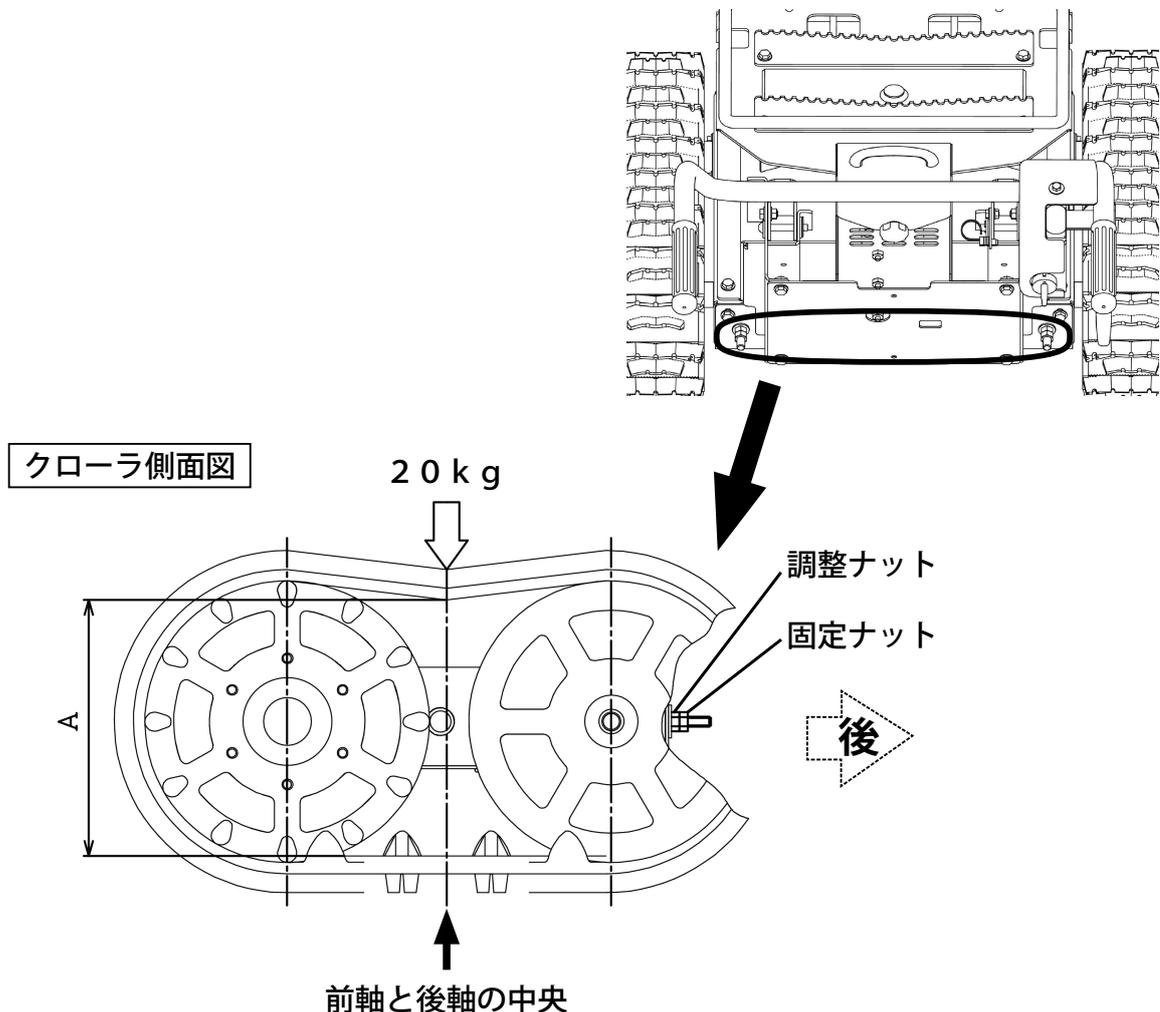
＜点検のしかた＞

クローラの前軸と後軸の中央を20kgで押したとき、下図Aの長さが210～220mmになっているか点検します。

＜調整のしかた＞

＜必要工具＞ 14mmのスパナ

- 1) メインスイッチを「切」位置にします。
- 2) 固定ナットをゆるめ、クローラの前軸と後軸の中央を20kgで押したとき、下図Aの長さが210～220mmになるように調整ナットを調整します。その際は、左右同じになるように調整してください。
- 3) 調整後、確実に固定ナットを締め付けます。



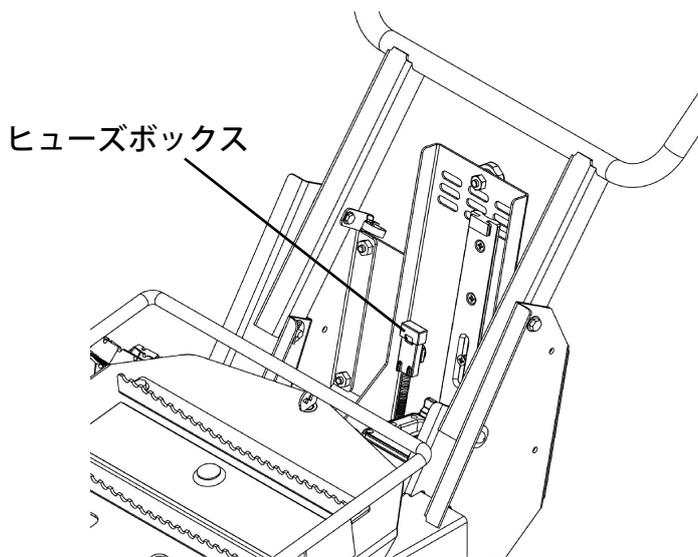
## 4. ヒューズ

### <ヒューズの点検・交換のしかた>

バッテリーカバーを取り外してから（P. 29参照）バッテリーを取り外し（P. 31参照）、ヒューズボックス内のヒューズが切れていないか点検します。

切れている場合は、指定のヒューズに交換してください。ヒューズは、つまんで引くと抜けます。

また、交換した場合は、確実にヒューズを差し込んでください。



品番・・・91811-130  
品名・・・ブレードヒューズ 30A



ヒューズが切れたときは、その原因を調べてから同容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。守らないと、火災につながるおそれがあります。

## 5. ドライブピン（車軸）

### <点検時期>

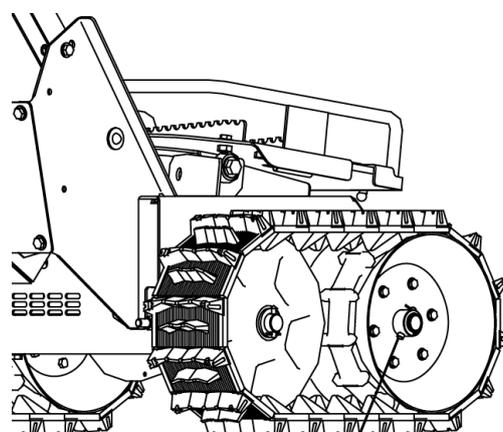
始業前

### <ドライブピン（車軸）の点検・交換のしかた>

ドライブピン（車軸）が切れていないか点検します。

切れている場合は、メインスイッチを「切」位置にしてから、指定のドライブピンに交換してください。

品番・・・26901-B96-002  
品名・・・ドライブピン



ドライブピン（車軸）

## 6. ドライブピン (チェンスプロケット)

<点検時期>

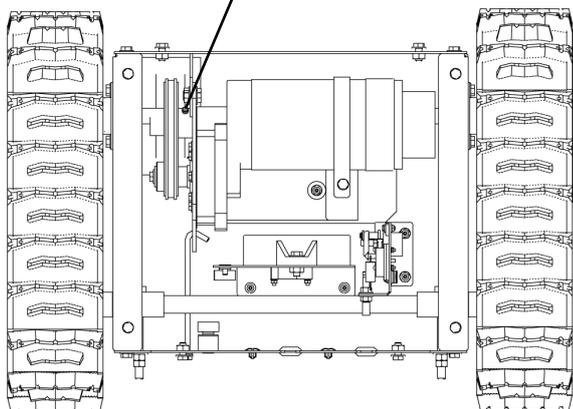
1年毎

<ドライブピン (チェンスプロケット) の点検・交換のしかた>

バッテリーを取り外してから (P. 31 参照) テーブルベースカバーを外し (P. 47 参照)、ドライブピン (チェンスプロケット) が切れていないか点検します。

切れている場合は、指定のドライブピンに交換してください。

ドライブピン (チェンスプロケット)



品番・・・26901-B96-002  
品名・・・ドライブピン

## 7. テーブルベースカバー内部の清掃

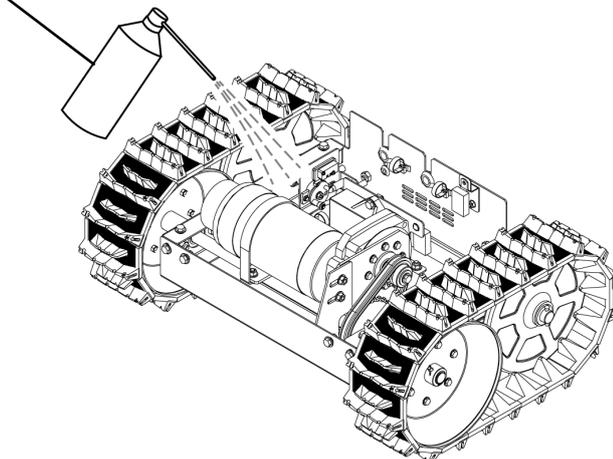
<清掃時期>

1年毎

<テーブルベースカバー内部の清掃のしかた>

バッテリーを取り外してから (P. 31 参照) テーブルベースカバーを外し (P. 47 参照)、エアブロースプレーなどでテーブルベースカバー内部を清掃します。

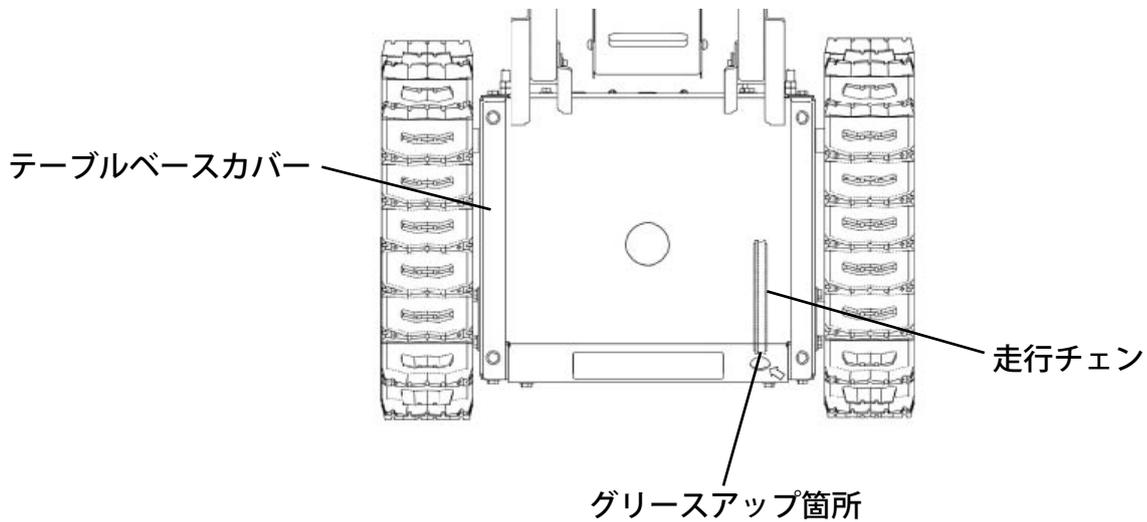
エアブロースプレー



## 8. グリースアップ

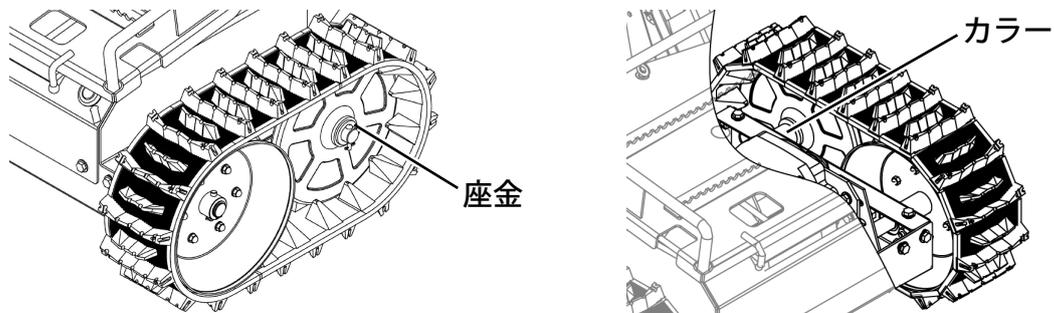
### <走行チェーン部のグリースアップ手順>

- 1) テーブルベースカバーに貼り付けてあるグリースマーク箇所のゴムブッシュを外し、グリースアップを行います。
- 2) 終わったらゴムブッシュを取り付けます。



### <足回りのグリースアップ手順>

- 1) 足回りの座金、カラーにグリースアップを行います。



# 10章 長期間使用しないときの手入れ

長期間保管するときは、次のことを必ずお守りください。

1. 保管するときはメインスイッチのキーを外してください。
2. バッテリーの充電、または、放電を行い、バッテリー残量を「3個点灯」程度にして、本機から外してください。

## [重要]

バッテリーの寿命を長持ちさせるため、以下の内容に従ってバッテリーの点検、保管をおこなってください。

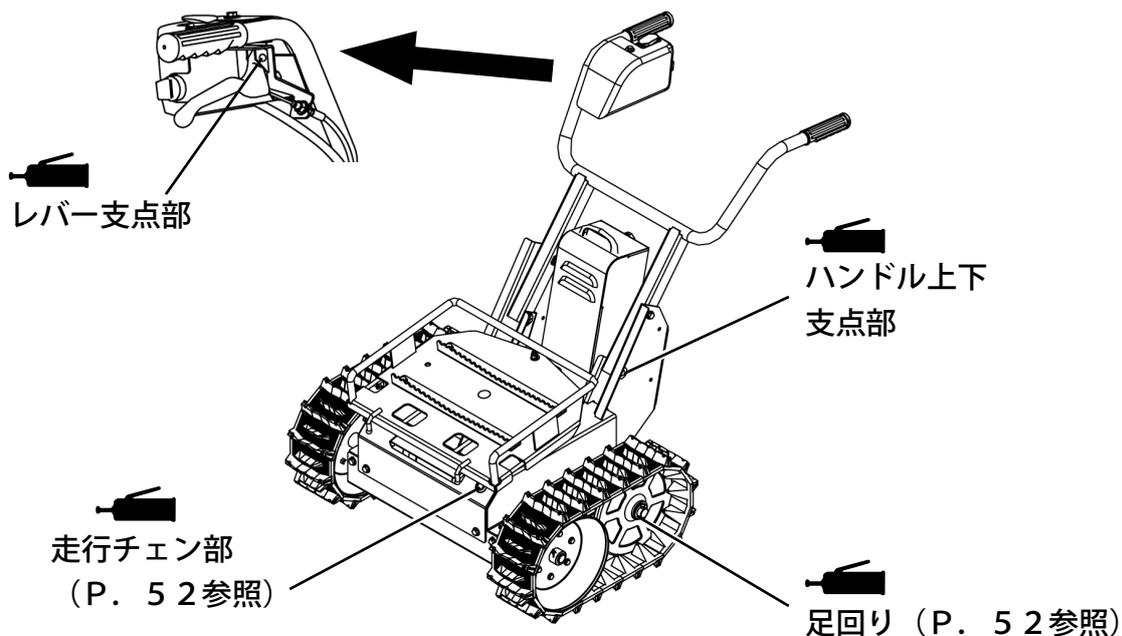
- ・半年毎にバッテリー残量を点検してください。
- ・バッテリー残量「1個点灯」以下では保管しないでください。
- ・長期間保管時には、バッテリー残量「3個点灯」程度で、本機から外して、湿気やホコリが少なく涼しい場所に保管してください。
- ・氷点下でのバッテリー放置はしないでください。万が一氷点下で放置を行った場合は、室温充電を行うことにより復帰します。

## 3. 保管時のグリースアップ

水気や汚れを拭き取り、乾燥させた後、各部をグリースアップしてください。

使用グリース・・・スプレーグリース

<グリースアップ箇所>



4. モーター等の高温部が冷めてから、ビニール等でカバーをし、湿気やホコリの少ないところに保管してください。

# 11章 不調診断のしかた

故障のときは、まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買い上げいただいた販売店へお申しつけください。

こんなときは		点検見直し箇所	処置方法
本機	電源が入らない	スロットルケーブルが折れ曲がっていませんか	スロットルケーブルの折れ曲がりを直してください
		バッテリーが正しく取り付けられていますか	P. 34を参照し、正しく取り付けてください
		バッテリーの残量はありますか	P. 32を参照して確認し、少ない場合は充電してください
		始動方法は間違っていないですか	P. 36「1. 発進のしかた」を参照し、正しい手順で行ってください
		ヒューズが切れていませんか	販売店に連絡し、修理を受けてください
	走行しない	クローラに異物が挟まっていませんか	異物を取り除いてください
		ドライブピンが切れていませんか	P. 50「5. ドライブピン（車軸）」、P. 51「6. ドライブピン（チェンスプロケット）」を参照し、新しいものに交換してください
		走行チェーンが切れていませんか	販売店に連絡し、交換してください
		異音・異臭がしていませんか	販売店に連絡し、修理を受けてください
牽引中に走行が停止する	無理な牽引作業をしていませんか	P. 41「7章 牽引作業のしかた」を参照し、過積載をしていないか確認してください	
充電器	充電器の緑ランプが点滅する	寒い場所や暑い場所、または、直射日光が当たる場所で充電していませんか	直射日光の当たらない、10℃～40℃の場所で充電してください
	充電器のランプが交互に点滅する	バッテリーを充電器から取り外してください	販売店に連絡し、修理を受けてください

## 12章 主要諸元

項目		型式名	e-WD80
機体寸法	全長	ハンドル低位置 mm	1030
		ハンドル高位置 mm	995
	全幅 mm	710	
	全高	ハンドル低位置 mm	820
		ハンドル高位置 mm	855
装備重量		kg	72
性能	荷台幅 mm		403
	荷台高 mm		320
	標準作業時間		約60分
	標準充電時間		約6時間
	使用温度範囲		15℃～30℃
走行部	モーター		DCブラシモーター 550W
	前進車速	km/h	0～3.0
	後進車速	km/h	0～2.5
	クローラ		ゴムクローラ
	幅×接地長×トレッド	mm	120×254×542
	チェーン		40×35RB
バッテリー	種類	リチウムイオン電池	
	容量	25.2V / 14.5Ah	

この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

## 13章 主要消耗部品および標準付属品

### 13-1. 主要消耗部品・交換部品

部品番号	部品名	備考
91903-K12-000	ラッシングベルト	
23901-K12-000	ゴムクローラ120×60×20	
22903-B89-000	クローラスプロケット	
22800-K12-000	クローラスプロケットボスCOMP	
22902-K12-000	ガイド	
22901-B96-001	クローラ誘導輪	
91661-4040035	チェン40×35RB	走行 1本
82100-B89-001	バッテリー LEV-0705	
91811-130	ブレードヒューズ 30A	
26901-B96-002	ドライブピン	車軸 左右各1本 チェンスプロケット 1本

### 13-2. 標準付属品

部品番号	部品名	個数	備考
—	保証書、安全確認カード	1	
91902-K12-000	取扱説明書 (e-WD80)	1	本書
91903-K12-000	ラッシングベルト	1	
82100-B89-001	バッテリー LEV-0705	1	
82300-B89-001	チャージャー NL07A-25DS	1	バッテリー充電器
91811-130	ブレードヒューズ 30A	1	